

令和7年度 全国学力・学習状況調査
調査結果報告書

岩見沢市教育委員会（岩見沢市立教育研究所）
令和7年10月8日

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、市内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 報告書の内容

文部科学省では調査結果の解釈等に関する留意事項で「本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である」と述べている。この点を十分に踏まえた上で、本報告書では岩見沢市の調査結果からみた学力の全体的な傾向及び児童生徒質問調査等の特徴的な事項並びに指導改善の取組等について記載している。

3 調査の対象

小学校・義務教育学校前期課程第6学年と中学校・義務教育学校後期課程第3学年の全児童生徒

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(2) 質問調査

- ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

- ・教科に関する調査の実施：令和7年4月17日（木） 中学校理科は4月14日（月）～17日（木）のいずれかで実施
- ・質問調査：令和7年4月の一定期間内にオンライン方式により実施
- ・調査結果の分析：令和7年7月24日（木）～10月6日（月）
- ・報告書の完成：令和7年10月6日（月）

校種	学校総数（校）			参加学校数（校）			児童生徒数（人）		
	岩見沢市(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
小学校 (含義務教育学校)	14	923	18,313	14	917	18,289	494	34,220	936,576
中学校 (含義務教育学校)	9	564	9,311	9	557	9,291	516	33,474	871,097
合計	23	1,487	27,624	23	1,474	27,580	1,010	67,694	1,807,673

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 岩見沢市の児童生徒の学力の状況

○【全国を100とした場合の平均正答率との比較】

- ・小学校は、国語・算数・理科とも全国平均からみて低い。（全国との差が国語は-5.7ポイント、算数は-5.2ポイント、理科は-5.4ポイント）
- ・中学校は、全国平均からみて国語はほぼ同様、数学は同様、理科は全国平均より高い。
（全国との差が国語は+1.3ポイント、数学は-0.6ポイント、理科はIRT平均スコア+5ポイント）

2 岩見沢市・北海道・全国の平均正答率（中学校理科はIRT平均スコア） (%)

児童生徒	項目	国語		算数・数学		理科	
		R7	R6	R7	R6	R7	R4
小学校 6年生	岩見沢市	63	65	55	58	54	64
	北海道(公立)	65	67	55	61	56	63
	全国(公立)	66.8	67.7	58	63.4	57.1	63.3
中学校 3年生	岩見沢市	55	56	48	51	508	50
	北海道(公立)	54	58	47	51	505	49
	全国(公立)	54.3	58.1	48.3	52.5	503	49.3

※岩見沢市と北海道の各教科平均正答率については、国から提供された整数値で示している。

3 全国平均正答率を100とした場合の岩見沢市・北海道の数値 (%)

児童生徒	項目	国語		算数・数学		理科	
		R7	R6	R7	R6	R7	R4
小学校 6年生	岩見沢市	94.3	96.0	94.8	91.5	94.6	100
	北海道(公立)	97.3	99.0	94.8	96.2	98.1	97.0
	全国(公立)	100	100	100	100	100	100
中学校 3年生	岩見沢市	101.3	96.4	99.4	97.1	508	99
	北海道(公立)	99.4	99.8	97.3	97.1	505	95
	全国(公立)	100	100	100	100	503	100

Ⅲ 教科に関する調査結果

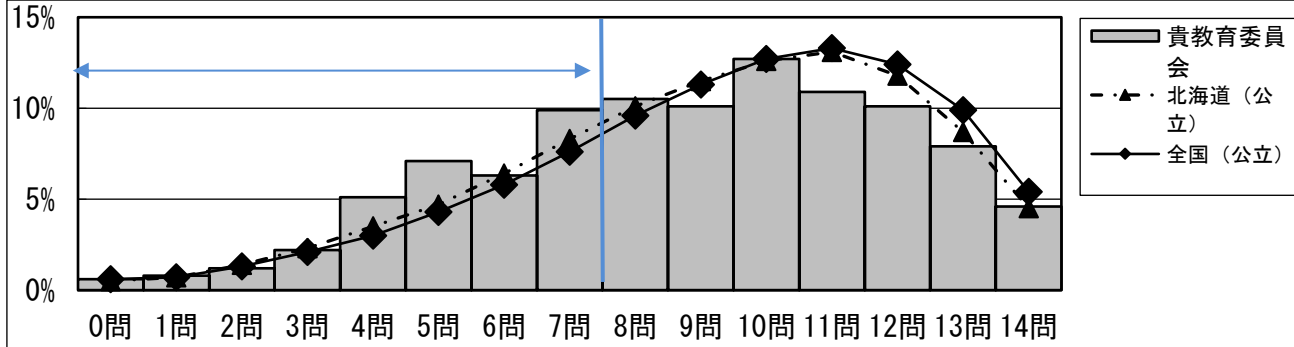
1 小学校国語

【概要】

- 平均正答率は63【63.1】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-3.7ポイント

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	495	8.8 / 14	63	9.0	3.1
北海道(公立)	34,203	9.2 / 14	65	10.0	3.0
全国(公立)	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

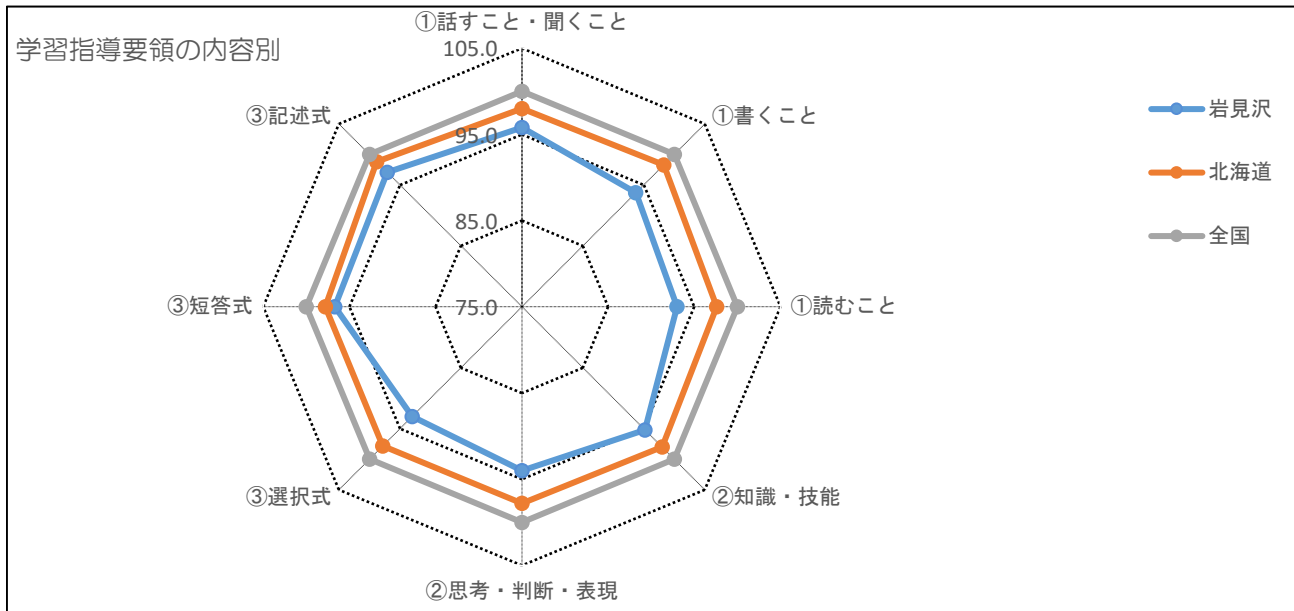


■全国の「正答数の少ない層」に含まれる児童の割合

- ・割合: 岩見沢 23.3%
: 全国 17.8%
- ・正答数: 14問中7問以下
- ・全国との差: 5.5ポイント多い

正答数	児童数	割合(%)		
		岩見沢	道(公立)	国(公立)
14問	23	4.6	4.5	5.4
13問	39	7.9	8.7	9.9
12問	50	10.1	11.8	12.4
11問	54	10.9	13.1	13.3
10問	63	12.7	12.6	12.7
9問	50	10.1	11.5	11.3
8問	52	10.5	10.1	9.6
7問	49	9.9	8.3	7.6
6問	31	6.3	6.4	5.8
5問	35	7.1	4.7	4.3
4問	25	5.1	3.5	3.0
3問	11	2.2	2.3	2.1
2問	6	1.2	1.4	1.3
1問	4	0.8	0.7	0.7
0問	3	0.6	0.5	0.6

△
◇
▽



※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	12.0問
◇ 第2四分位	9.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については岩見沢市は全国と比べ、第2四分位と第3四分位の正答数が1問ずつ少ない。
児童数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」は少なく(-7.5ポイント)、「正答数の少ない層」は多い(+5.5ポイント)。

(1) 小学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

〔思考力、判断力、表現力等〕

【話すこと・聞くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.8で4.2ポイント下回っている。令和6年度は93.5、令和5年度は96.8であり、前年度よりはやや上昇した。
- ・問題番号では、1一、1三(1)、1三(2)が該当し、そのうち2問が全国を下回っている。
- ◆「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」ことに課題がある。〔1一〕

【書くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は93.7で6.3ポイント下回っている。令和6年度は91.2で、令和5年度は79であり、前年度より向上してきている。
- ・問題番号では、2一、2二、2三が該当し、3問とも全国より下回っている。
- ◆「目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに課題がある。〔2三〕

【読むこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は93.0で7ポイント下回っている。令和6年度は98.6で、令和5年度は99であり、下降傾向が続いている。
- ・問題番号では、3二(1)、3二(2)、3三(1)、3三(2)が該当し、4問とも全て全国より下回っている。
- ◆「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける」ことに課題がある。〔3三(1)〕

【知識及び技能】 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.2で4.8ポイント下回っている。令和6年度は97.8で、令和5年度は99であり、下降傾向が続いている。
- ・問題番号では、1二、2四ア、2四イ、3一が該当し、2四アは全国を上回り、残り3問は全て下回っている。
- ◆「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使う」ことや「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことに課題がある。〔1二、2四イ〕

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- ・本市では、全国と比べ、全ての領域で正答率が低く、特に「C読むこと」領域の4つの設問の趣旨「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける」ことに大きな課題が見られます。
- ・目的に応じて、必要な情報を的確に見出すためには、文章の内容を正確に把握するとともに、図や表の情報と結び付けて整理し、自分の言葉で説明できるようにする学習が必要です。普段の授業においても、文章から情報を取り出し、図表に整理したり、図表から得られる情報を文章と照らし合わせたりする活動を意識的に取り入れることが大切です。また、「B書くこと」領域でも「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して書く」ことに課題があります。文章を書く目的を意識して内容を取捨選択し、読み手に分かりやすい構成となるようにすることが必要です。この点は、「A話すこと・聞くこと」の課題とも共通しており、相互に関連付けながら指導を充実させていくことが重要です。
- ・全国的にも「A話すこと・聞くこと」領域の1一と「C読むこと」領域の3二(2)、3三(1)の正答率が低く、岩見沢市と同様の課題が見られます。

(2) 小学校国語 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道)	(公全国)	岩見沢市	(公道)	(公全国)
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	48.9	51.2	53.3	0.0	0.4	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	56.8	61.8	63.1	0.4	0.3	0.5
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる	72.5	71.2	71.8	0.4	0.4	0.6
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	69.1	72.6	73.7	0.2	0.4	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる	61.0	64.1	65.5	0.8	0.7	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	75.8	80.2	81.8	1.0	0.7	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	58.6	60.4	61.3	7.1	5.4	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(このみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	82.0	81.6	81.6	7.1	7.2	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す(あついで)		66.5	68.1	72.1	6.1	4.7	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	78.2	80.6	81.2	0.6	1.0	1.3
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる	79.2	80.6	81.6	1.2	2.6	2.9
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる	41.6	48.1	51.3	1.6	2.0	2.4
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	37.6	39.6	40.8	2.8	2.9	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	55.6	55.8	56.3	16.2	16.1	16.2

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 小学校国語 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

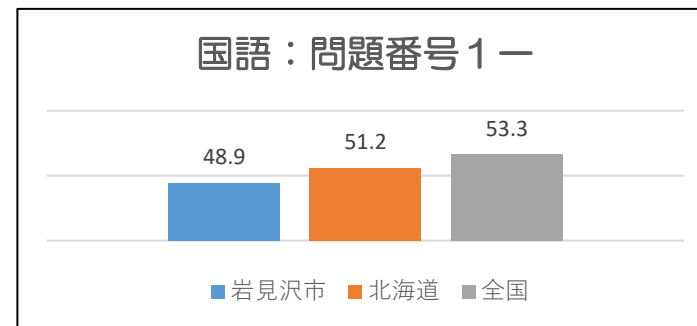
問題番号1一

問題の概要	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する
出題の趣旨	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
48.9	51.2	53.3	-4.4

(課題)

全国と比べ、「目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、複数の質問の違いを明確にしたり、関連付けたりすることで、聞きたいことを相手から引き出そうとしていることを捉えられていない。



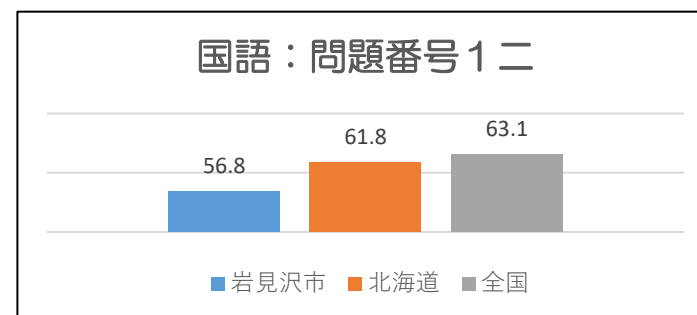
問題番号1二

問題の概要	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する
出題の趣旨	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
56.8	61.8	63.1	-6.3

(課題)

全国と比べ、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、質問する内容を四角で囲み、線で繋ぐことでインタビューの流れを整理していることを捉えられていない。



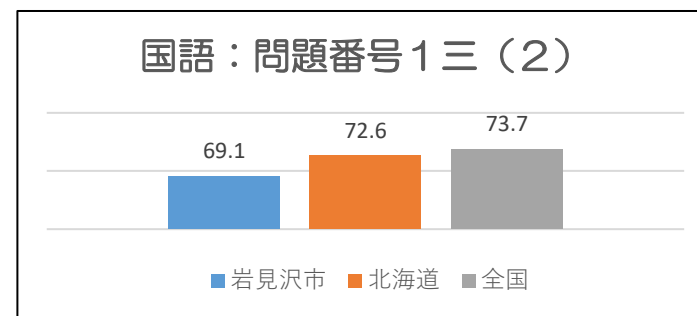
問題番号1三(2)

問題の概要	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する
出題の趣旨	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
69.1	72.6	73.7	-4.6

(課題)

全国と比べ、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、話し手の考えと自分の考えを比較し、共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして自分の考えをまとめることができていない。



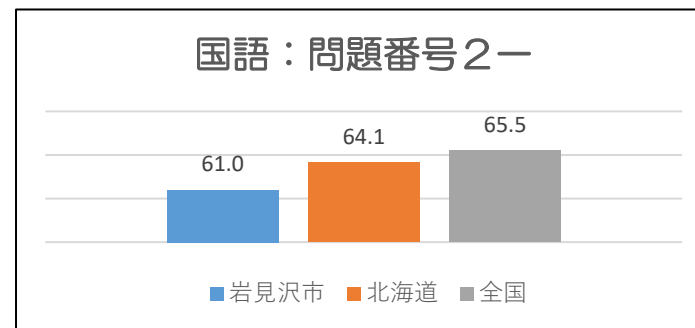
問題番号2一

問題の概要	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものと適切なものを選択する
出題の趣旨	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
61.0	64.1	65.5	-4.5

(課題)

全国と比べ、「書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに書いていると捉えることができていない。



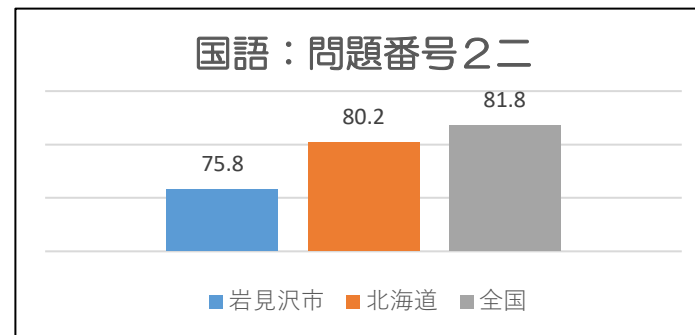
問題番号2二

問題の概要	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する
出題の趣旨	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
75.8	80.2	81.8	-6.0

(課題)

全国と比べ、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことができていない児童が多い。伝えたいことを明確にし、内容を理解してもらうために、言葉と図を合わせて示して、書き表し方を工夫していることを捉えることができていない。



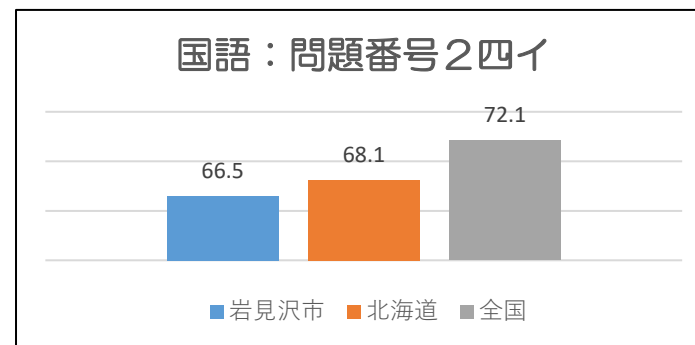
問題番号2四イ

問題の概要	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつい日）
出題の趣旨	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
66.5	68.1	72.1	-5.6

(課題)

全国と比べ、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことができていない児童が多い。漢字のもつ意味を考えて正しく使う習慣が身に付くよう指導する必要があり、同音異義語などに注意するよう指導する必要がある。相手の読みやすさや意味の通りやすさからも正しく漢字を書くことが求められる。



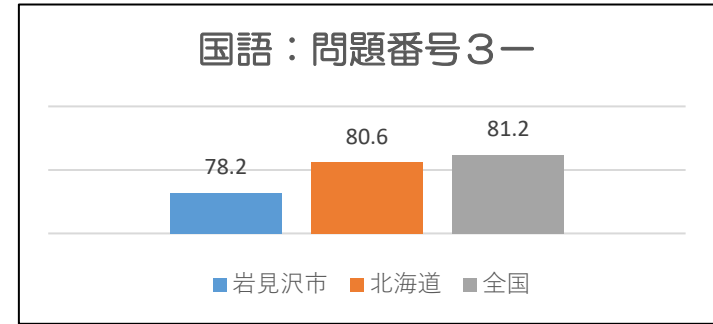
問題番号3一

問題の概要	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する
出題の趣旨	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
78.2	80.6	81.2	-3.0

(課題)

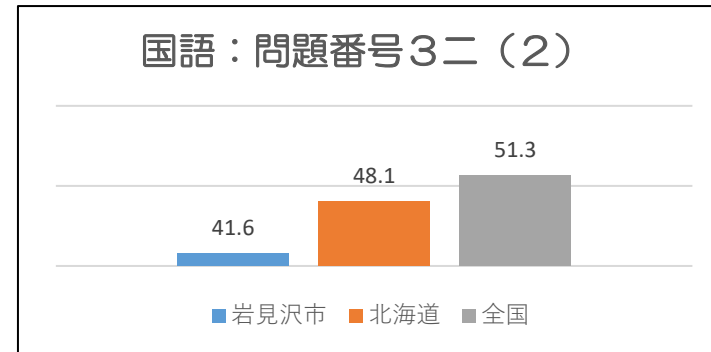
全国と比べ、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」ことができている児童が多い。多くの誤答では、世代によって特有の言葉遣いがあり、もの呼び方が違うことに気付いたと捉えることができていない。



問題番号3二(2)

問題の概要	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する
出題の趣旨	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
41.6	48.1	51.3	-9.7



全国と比べ、「叙述を基に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」ことができている児童が多い。多くの誤答では、叙述を基に「時代とともに言葉の意味が変わる」ということが捉えられていない。

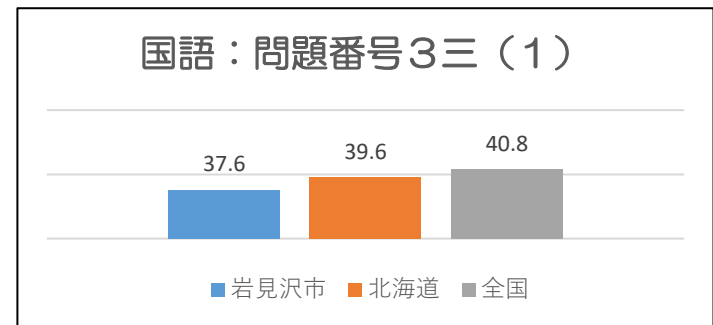
問題番号3三(1)

問題の概要	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する
出題の趣旨	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
37.6	39.6	40.8	-3.2

(課題)

全国と比べ、「目的に応じて、必要な情報を見付ける」ことができている児童が多い。必要な情報は、目的に応じて変わり、読む目的を明確にする必要があるが、必要な情報を見付けるために、書かれている文章と文章が結び付いていることを捉えることができていない。



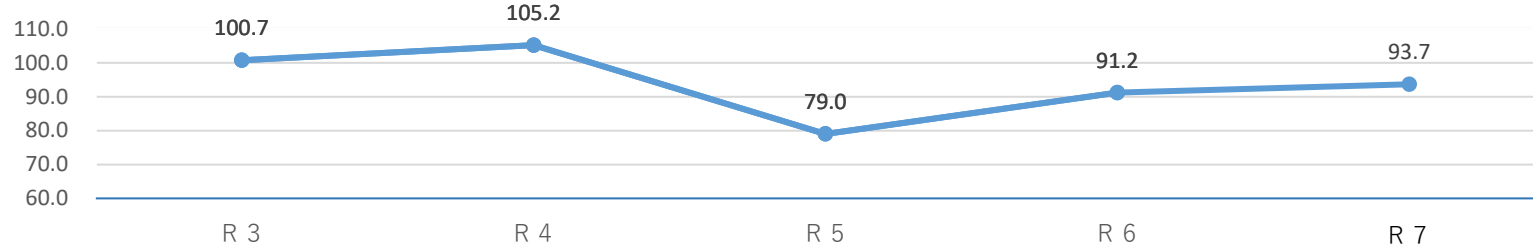
3ポイント以上差のある問題の領域等(9問)

問題番号	学習指導要領の内容(領域)	差
1一	思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと)	-4.4
1二	知識及び技能(情報の使い方に関する事項)	-6.3
1三(2)	思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと)	-4.6
2一	思考力・判断力・表現力等(B 書くこと)	-4.5
2二	思考力・判断力・表現力等(B 書くこと)	-6.0
2四イ	知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)	-5.6
3一	知識及び技能(我が国の言語文化に関する事項)	-3.0
3二(2)	思考力・判断力・表現力等(C 読むこと)	-9.7
3三(1)	思考力・判断力・表現力等(C 読むこと)	-3.2

内容別	知識及び技能	3問
	思考力・判断力・表現力等	6問

【考察】
 全国と比べて3ポイント以上差のある問題について、学習指導要領の内容別に見ると、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題が6問、【知識及び技能】を問う問題が3問となっている。
 【思考力・判断力・表現力等】の定着に課題があると考えられ、特に(B書くこと)では2問が約5ポイント以上、(C読むこと)では約10ポイント差が生じている。また、【知識及び技能】の情報の扱いに関する問題や漢字の使い方の問題では6ポイント下回っている。
 (B書くこと)領域は各校で取組み、昨年度、数値的に大きく上昇し、本年度も上向きだが継続して取り組む必要がある。

小学校国語（思考力・判断力・表現力等）（B書くこと領域）岩見沢の推移



Ⅲ 教科に関する調査

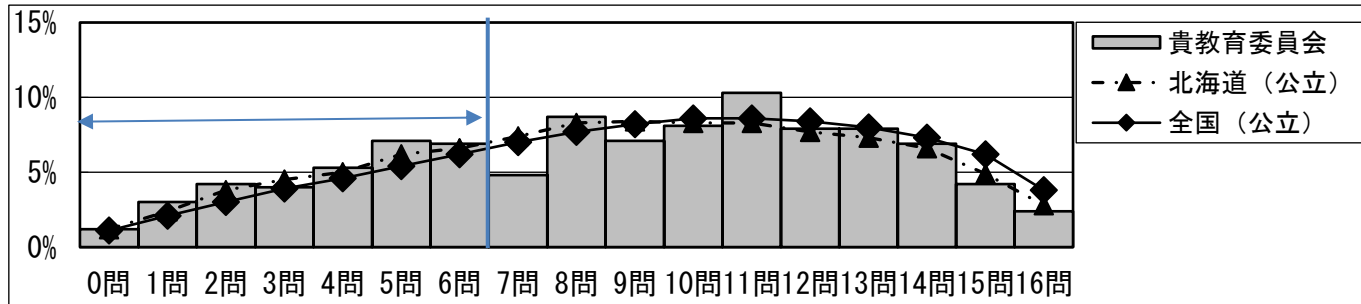
2 小学校算数

【概要】

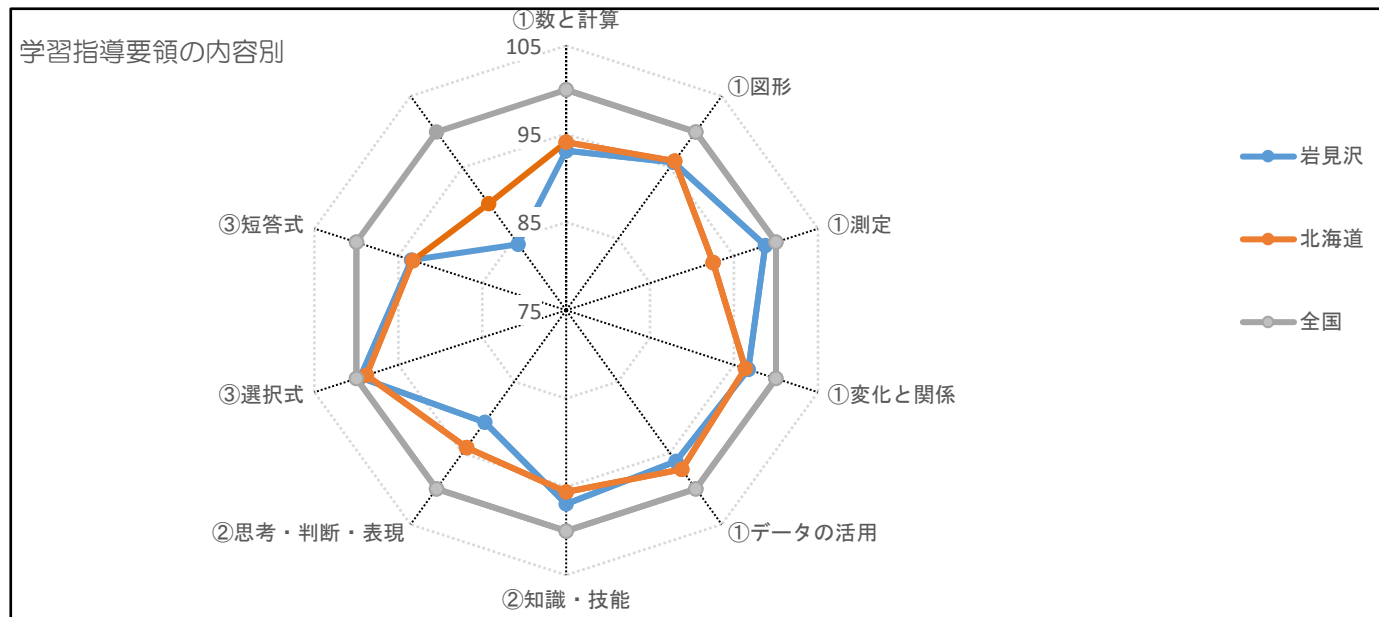
- 平均正答率は55【54.9】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-3.1ポイント

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	495	8.8 / 16	55	9.0	4.1
北海道(公立)	34,203	8.8 / 16	55	9.0	4.0
全国(公立)	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)



■全国の「正答数の少ない層」に含まれる児童の割合

- ・割合: 岩見沢 31.7%
- 全国 26.3%
- ・正答数: 16問中6問以下
- ・全国との差: 5.4ポイント多い

正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)		
	岩見沢	岩見沢	道(公立)	国(公立)
16問	12	2.4	2.8	3.8
15問	21	4.2	4.9	6.2
14問	34	6.9	6.6	7.3
13問	39	7.9	7.3	8.0
12問	39	7.9	7.7	8.4
11問	51	10.3	8.3	8.6
10問	40	8.1	8.3	8.6
9問	35	7.1	8.4	8.2
8問	43	8.7	8.3	7.7
7問	24	4.8	7.4	7.0
6問	34	6.9	6.6	6.2
5問	35	7.1	6.2	5.4
4問	26	5.3	5.0	4.6
3問	20	4.0	4.5	3.9
2問	21	4.2	3.8	3.0
1問	15	3.0	2.4	2.1
0問	6	1.2	1.2	1.1

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	13.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	10.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	6.0問

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については、第1分位は全国と同数だが第2分位と第3分位は1問ずつ少ない。
児童数の割合では、全国と比べ「正答数の多い層」は少なく(-4.4ポイント)、「正答数の少ない層」は多い(+5.4ポイント)。

(1) 小学校算数 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【数と計算】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、93.1で6.9ポイント下回っている。令和6年度は92.6、令和5年度は95.7であり、昨年度と同様である。
- ・問題番号では、1(1)、1(4)、3(1)、3(2)、3(3)、3(4)、4(1)、4(2)の8問が該当し、全て全国を下回っているが、4(1)は-0.6ポイントで同様となっている。
- ◆「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を指揮に表し、計算する」ことに課題がある。〔1(4)〕
- ◆「小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えること」ことに課題がある。〔3(1)〕
- ◆「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔3(2)〕
- ◆「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる」ことに課題がある。〔3(3)〕
- ◆「異分母の分数の加法の計算をすることができる」ことに課題がある。〔3(4)〕
- ◆「伴って変わる二つの数量の関数に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔4(2)〕

【図形】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.7で4.3ポイント下回っている。令和6年度は96.4で、令和5年度は102.5であり、下降している。
- ・問題番号では、2(1)、2(2)、2(3)、2(4)の4問が該当し、2(2)で3.5ポイント上回っているが、その他は全国を下回っている。
- ◇「台形の意味や性質について理解している」ことはできている。〔2(2)〕
- ◆「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する」ことに課題がある。〔2(1)〕
- ◆「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔2(4)〕

【測定】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は98.7で1.3ポイント下回っている。令和6年度と令和5年度にはこの領域の対象問題はない。
- ・問題番号では、4(2)の1問が該当し、全国を下回っている。
- ◆「伴って変わる二つの数量の関数に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔4(2)〕

【変化と関係】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は96.7で3.3ポイント下回っている。令和6年度は80.5で、令和5年度は96.9であり、上昇傾向が伺える。
- ・問題番号では、4(1)、4(2)の2問が該当し、どちらも全国を下回っているが、4(1)は-0.6ポイントで同様となっている。
- ◆「伴って変わる二つの数量の関数に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔4(2)〕

【データの活用】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は96.2で3.8ポイント下回っている。令和6年度は92.1で、令和5年度は98.0であり、同様の傾向が続いている。
- ・問題番号では、1(1)、1(2)、1(3)、4(1)、4(2)の5問が該当し、いずれも全国を下回っているが、1(3)は-0.7ポイント、4(1)は-0.6ポイントで同様となっている。
- ◆目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できることに課題がある。〔1(2)〕
- ◆「伴って変わる二つの数量の関数に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔4(2)〕

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べて5領域で全国を下回っています。中でも、1(4)「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題」、3(2)「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」、3(4)「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題」が、全国と比べて7.2ポイント、7.0ポイント、7.6ポイントと大きく下回っており、課題が見られます。
- そのために、例えば、数量の関係を表す式に関わる学習においては、示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表すことができるようにすることが重要ですので、例えば、1(4)の設問を用いて、それぞれの野菜の70gの目安が示された資料から、自分が何gの野菜を食べたのかを調べる活動を行い、そこから数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが考えられます。また、四則の混合した式について、計算の順序のきまりを理解し、正しく計算できるようにすることも大切です。
- 全国的にも最も正答率が低かった問題は3(2)「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題だが、岩見沢市は全国と比べて7.0ポイントも下回っています。分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見出すことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが重要です。例えば加数と被加数の単位分数に着目して、既習の整数の加法に帰着できるのかを考察し、それぞれの単位分数が異なっているため、整数の加法に帰着できないことに気付くことができるようにし、そのうえで、共通する単位分数を使って表すことで整数の加法に帰着できることに気づくことができるようにすることが大切です。

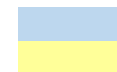
(2) 小学校算数 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道 立)	(公全国 立)	岩見沢市	(公道 立)	(公全国 立)
1 (1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	77.0	77.1	78.7	0.0	0.3	0.4
1 (2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	25.5	28.8	31.0	0.2	0.8	0.9
1 (3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる	70.9	72.1	71.6	3.8	3.3	3.5
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	67.3	71.2	74.5	3.2	2.9	2.6
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	52.5	54.4	58.3	1.6	1.3	1.2
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	53.7	50.5	50.2	0.8	0.7	0.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	78.0	76.8	79.3	1.0	1.0	1.0
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	31.1	33.8	37.0	2.6	2.6	2.7
3 (1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさをういて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	70.9	71.5	74.1	4.0	3.1	2.8
3 (2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	16.0	18.6	23.0	18.6	18.1	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	31.5	31.3	35.0	9.9	8.3	7.8
3 (4)	$1/2 + 1/3$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	73.7	73.0	81.3	5.5	5.1	4.1
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	82.2	82.0	82.8	3.2	2.7	2.6
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	45.3	44.3	48.7	3.0	3.4	3.4
4 (3)	はかりが示された場で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる	63.0	57.0	60.9	4.8	4.5	4.2
4 (4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる	39.4	40.0	40.9	4.2	4.4	4.1

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合



(3) 小学校算数 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

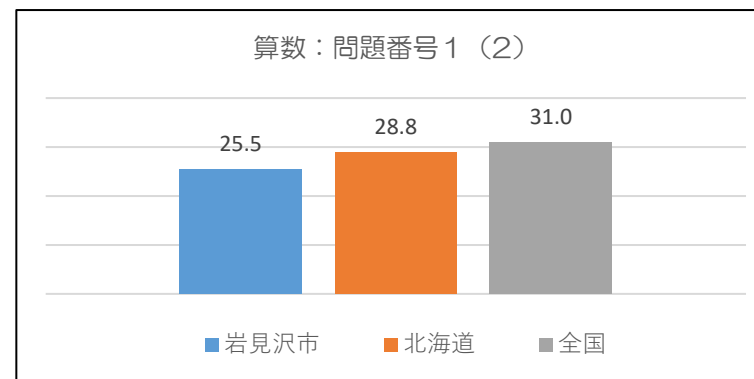
問題番号1 (2)

問題の概要	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く
出題の趣旨	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
25.5	28.8	31.0	-5.5

(課題)

全国と比べ、「適切なグラフを選択し増減を判断し言葉や数を用いて記述する」ことができていない児童が多い。目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択することが大切である。多くの誤答では、グラフ2の出荷量の割合に着目したものと考えられる。そのため、棒グラフや帯グラフのそれぞれの特徴を理解できるようにする必要がある。



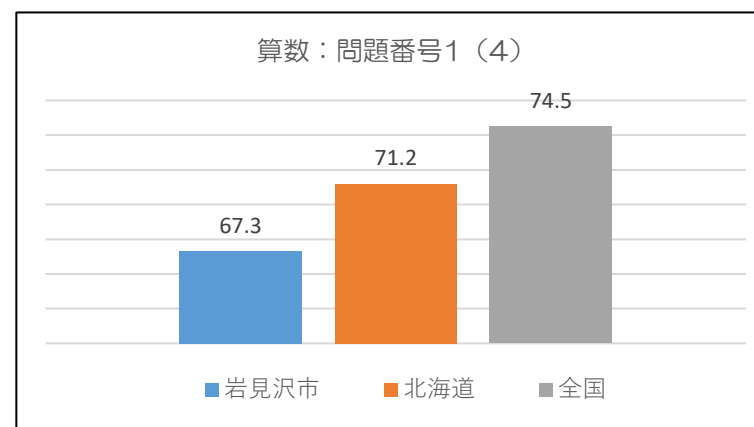
問題番号1 (4)

問題の概要	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く
出題の趣旨	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
67.3	71.2	74.5	-7.2

(課題)

全国と比べ、「資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する」ことができていない児童が多い。問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすることができていない。



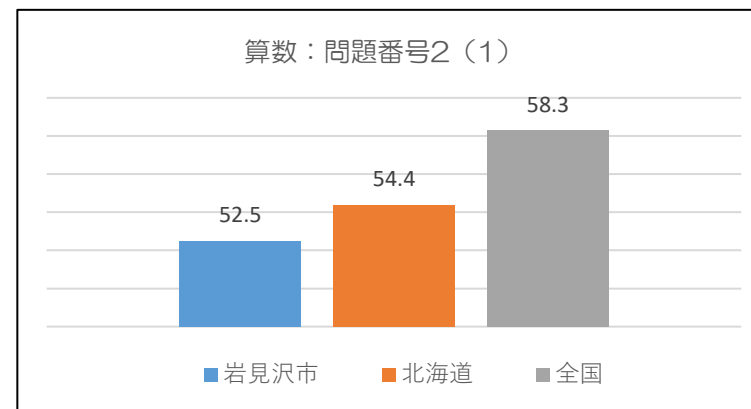
問題番号2 (1)

問題の概要	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ
出題の趣旨	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
52.5	54.4	58.3	-5.8

(課題)

全国と比べ、「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する」ことができていない児童が多い。本設問では、コンパスを開く長さを5cmと誤って捉えたり、コンパスの針を刺す場所を頂点Aであると誤って捉えたりするなど、図形の性質を捉えた作図について正しく理解できていない。



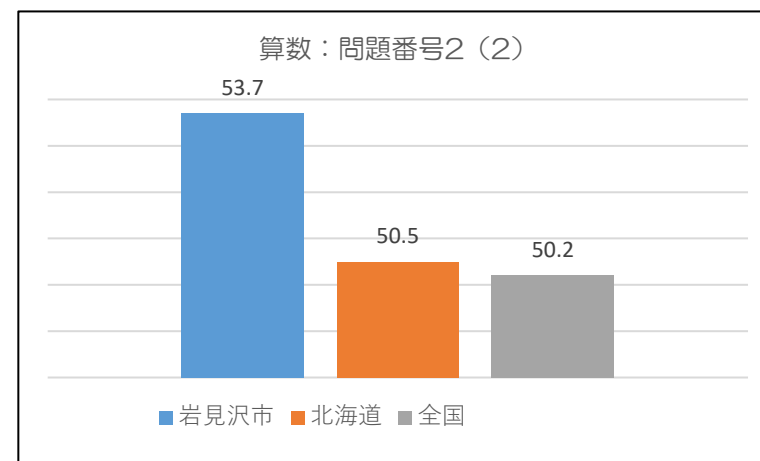
問題番号2 (2)

問題の概要	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ
出題の趣旨	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
53.7	50.5	50.2	3.5

(成果)

全国と比べ、「台形の意味や性質について理解する」ことができていない児童が多い。図形の置き方をいろいろと変えても、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して、図形を弁別できている。



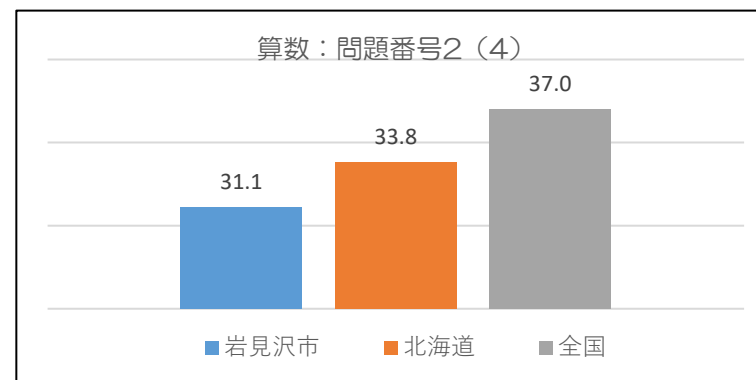
問題番号2 (4)

問題の概要	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く
出題の趣旨	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
31.1	33.8	37.0	-5.9

(課題)

全国と比べ、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、図形の面積の求め方を言葉の式で記述することはできているが、必要な長さを見いだして式や言葉を用いて記述することができていない。



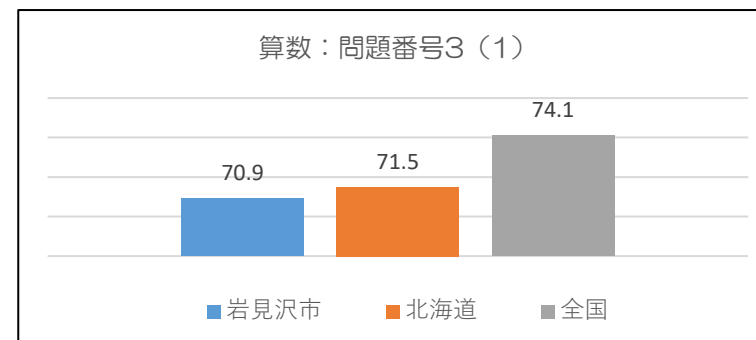
問題番号3 (1)

問題の概要	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く
出題の趣旨	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
70.9	71.5	74.1	-3.2

(課題)

全国と比べ、「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える」ことができていない児童が多い。本設問では1/100の位に着目して0.01の幾つ分かを考えることが必要であることから、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、数の相対的な大きさについての関係を正しく理解することが必要である。

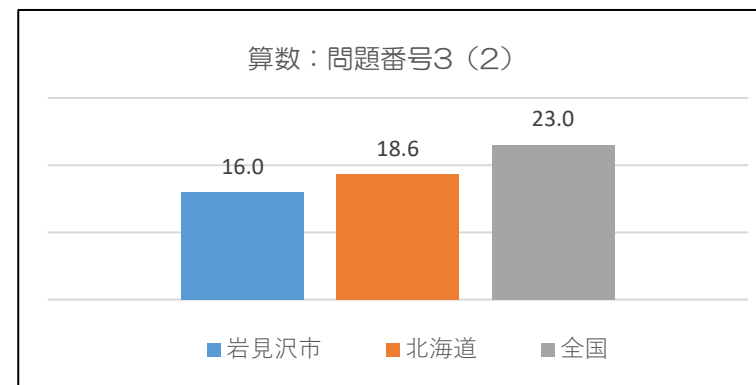


問題番号3 (2)

問題の概要	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く
出題の趣旨	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
16.0	18.6	23.0	-7.0

(課題)



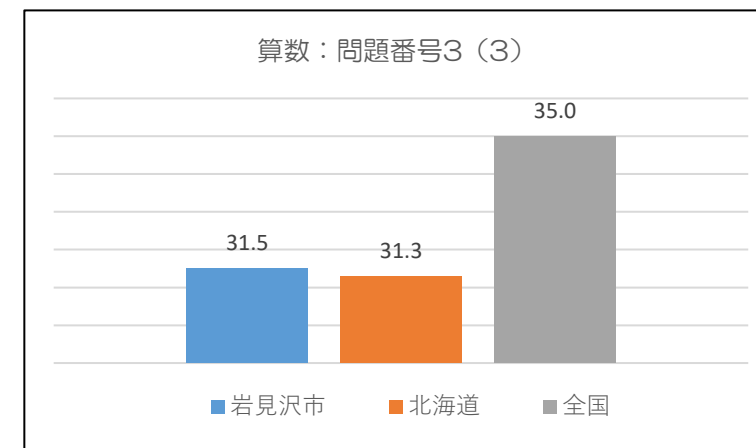
全国と比べ、「分数の加法について、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、通分について記述しているが共通する単位分数やその幾つ分なのか記述できなったり、通分する際に分母と分子にかけた数を単位分数の幾つ分かとして誤って捉えたりしている。

問題番号3 (3)

問題の概要	数直線上に示された数を分数で書く
出題の趣旨	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
31.5	31.3	35.0	-3.5

(課題)



全国に比べ、「数直線上で、分数を単位分数の幾つ分として捉える」ことができていない児童が多い。本設問では、数直線上の目盛りが表示する数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めることができるようにすることが必要である。

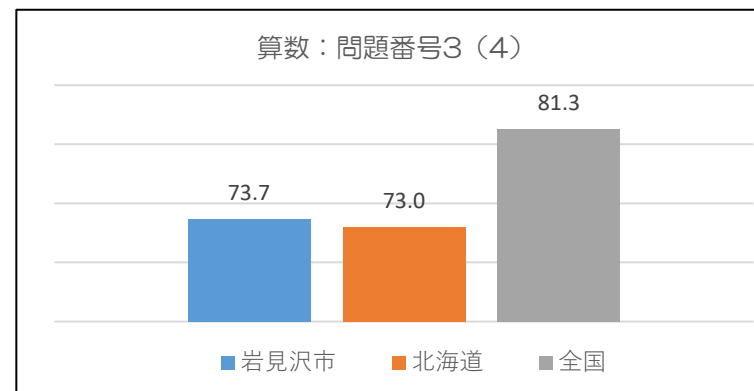
問題番号3 (4)

問題の概要	1/2 + 1/3を計算する
出題の趣旨	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
73.7	73.0	81.3	-7.6

(課題)

全国に比べ、「異分母の分数の加法の計算をする」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、分母の最小公倍数を用いることはできているが分子をそのままにして計算していたり、通分せずに分子どうし・分母どうしをそのまま足している。



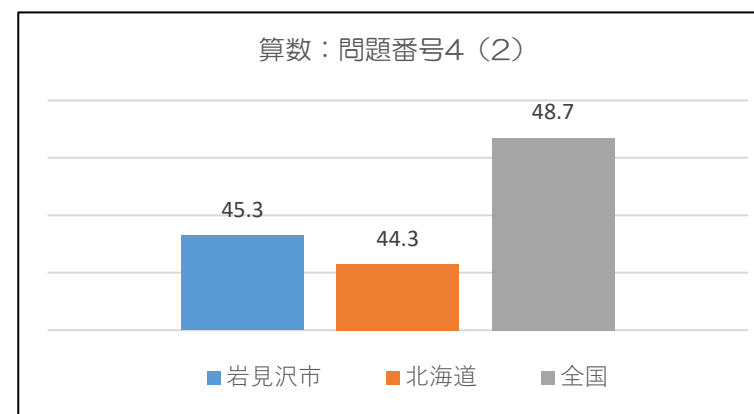
問題番号4 (2)

問題の概要	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く
出題の趣旨	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
45.3	44.3	48.7	-3.4

(課題)

全国と比べ、「伴って変わる二つの数量の関係から、問題解決のために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する」ことができていない児童が多い。複数の情報から場面に基いて必要な数量を見だし、それらの数量の関係を捉えるとともに、その関係を式や言葉の式に表現できるようにすることが重要である。



3ポイント以上差がある問題の領域等（9問）

問題番号	学習指導要領の領域	差
1(2)	思考力・判断力・表現力（D データの活用）	-5.5
1(4)	思考力・判断力・表現力（A 数と計算）	-7.2
2(1)	知識・理解（B 図形）	-5.8
2(4)	思考力・判断力・表現力（B 図形）	-5.9
3(1)	知識・理解（A 数と計算）	-3.2
3(2)	思考力・判断力・表現力（A 数と計算）	-7.0
3(3)	知識・理解（A 数と計算）	-3.5
3(4)	知識・理解（A 数と計算）	-7.6
4(2)	思考力・判断力・表現力（A数と計算 C 測定、変化と関係 D データの活用）	-3.4

内容別	知識・技能	4問
	思考力・判断力・表現力	5問

【考察】
 全国と比べて3ポイント以上差がある問題について、学習指導要領の領域別に見ると（A数と計算）で6問、（B図形）で2問、（C測定）と（C変化と関係）でそれぞれ1問ずつ、（Dデータの活用）で2問となっている。特に（A数と計算）と（B図形）は一昨年、昨年に続き下降している。中でも異分母の分数の加法について差ができていたため、同分母の分数の加法や減法の考えを振り返り、単位分数の幾つ分という分数の意味を理解し加法や減法ができることを確認することが求められる。

Ⅲ 教科に関する調査結果

3 小学校理科

【概要】

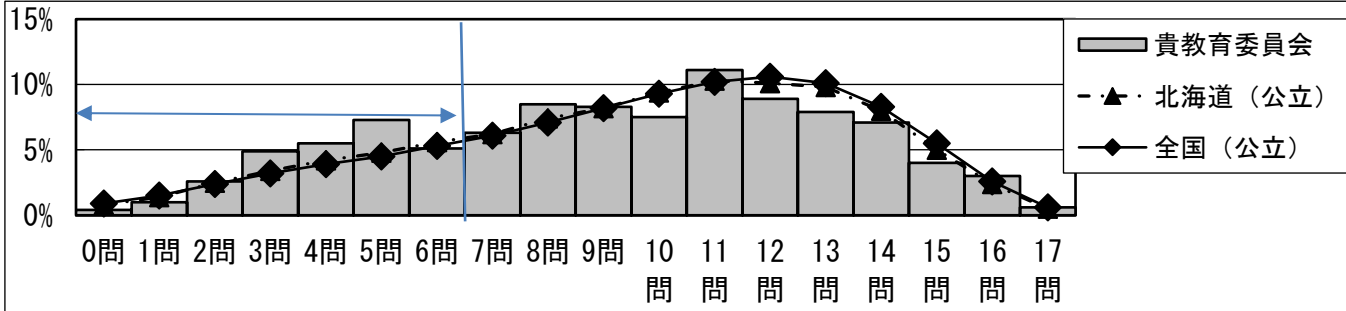
- 平均正答率は54【54.2】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.9ポイント

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	494	9.2 / 17	54	10.0	3.9
北海道(公立)	34,220	9.6 / 17	56	10.0	3.8
全国(公立)	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

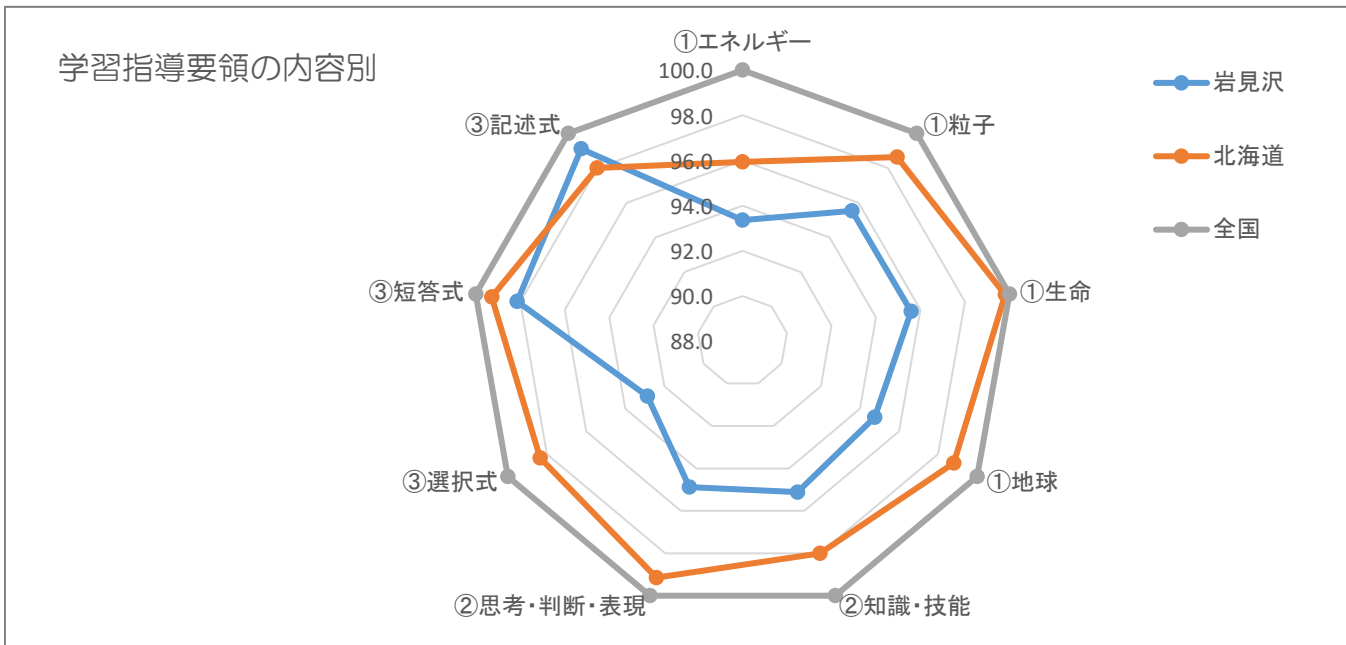
■全国の「正答数の少ない層」に含まれる児童の割合

- 割合：岩見沢 26.8%
：全国 21.7%
- 正答数：17問中6問以下
- 全国との差：5.1ポイント少ない

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	岩見沢	岩見沢	道(公立)	国(公立)
17問	3	0.6	0.5	0.6
16問	15	3.0	2.4	2.6
15問	20	4.0	5.0	5.5
14問	35	7.1	8.0	8.3
13問	39	7.9	9.8	10.1
12問	44	8.9	10.1	10.6
11問	55	11.1	10.3	10.2
10問	37	7.5	9.4	9.3
9問	41	8.3	8.2	8.2
8問	42	8.5	7.4	7.1
7問	31	6.3	6.2	6.1
6問	25	5.1	5.6	5.3
5問	36	7.3	4.8	4.5
4問	27	5.5	4.2	3.9
3問	24	4.9	3.4	3.2
2問	13	2.6	2.5	2.4
1問	5	1.0	1.4	1.5
0問	2	0.4	0.8	0.9

△

◇

▽

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	6.0問	7.0問	7.0問

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数は岩見沢市は全国と比べ第1分位と第3分位が1問ずつ少ない。

児童数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」では少なく(-6.2ポイント)。また、「正答数の少ない層」は多い(+5.1ポイント)。

(1) 小学校理科 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【エネルギー】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は93.4%で6.6ポイント下回っている。令和4年度は103.7%で全国を上回っていた。
- 問題番号では、2(1)、2(2)、2(3)、2(4)の4問が該当し、いずれも全国を下回っている。
特に2(4)は、全国を5.9ポイント下回っている。
- ◆ 「乾電池のつなぎ方やその特徴を捉えること」に課題がある。 [2(4)]

【粒子】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、95.5%で4.5ポイント下回っている。令和4年度は103%で全国を上回っていた。
- 問題番号では、2(1)、4(1)、4(2)イウ、4(2)エオ、4(3)カ、4(3)クの6問が該当し、4(1)は全国を上回ったが、残りは全国を下回っている。
特に4(1)、4(2)エオ、4(3)カ、4(3)クは全国を5ポイント以上下回っている。
- ◆ 「問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること」に課題がある。 [4(1)]

【生命】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.6%で4.4ポイント下回っている。平成4年度は99.6%で全国と同様であった。
- 問題番号では、3(1)、3(2)、3(3)、3(4)、の4問が該当し、3(2)は全国を上回ったが、残りは全国を下回っている。
特に、3(1)、3(3)は全校を5ポイント以上下回っている。
- ◆ 「ヘチマの花のおしべとめしべ、受粉についての知識が身に付いていること」「条件を制御した観察、実験の方法を計画すること」に課題がある。 [3(1)]

【地球】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は94.8%で5.2ポイント下回っている。令和4年度は102%で全国をやや上回っていた。
- 問題番号では、1(1)、1(2)、1(3)、4(2)イウ、4(2)エオ、4(3)キの6問が該当し、6問とも全国を下回っている。
特に、1(1)、1(3)、4(3)キは全国を4ポイント以上下回っている。
- ◆ 「【問題】を解決するための【方法】を発想し、条件を正しく設定しながら調べること」「他の条件での予想を発想し、【考えられる時間を選んだ理由】を思考して、表現すること」「学習した内容や児童の生活体験などを基に根拠のある予想や仮説を発想して、思考し判断すること」に課題がある。

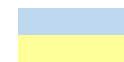
② 成果や課題から見られる今後の指導のポイント

- 本市では、全国と比べ、4領域全てで全国を下回っている。設問によっては全国と比較し大きく下回っている。
- 学習したことを、自然の事物・現象に当てはめて捉え直すことができるようにすることや、より妥当な考えをつくりだすために、様々な場面で解決の方法を改善させるなどの授業の工夫が必要である。
- 見て、考えて、言葉で表現することを通してより深い理解、「ものづくり」と「言葉や図での表現」との往還でより深い理解に導くなど、授業の改善が求められる。
- 考えたことを科学的な言葉を使用して表現する活動の充実や、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるような指導の工夫が必要である。
- 条件を制御した実験の方法を発想し、表現することや、観察、実験の結果を基に、問題に正対した自分の考えを表現するなどの学習活動の工夫が必要である。

(3) 小学校理科 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道)	(全国)	岩見沢市	(公道)	(全国)
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	75.5	79.9	79.5	2.4	2.2	2.5
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる	60.3	59.5	60.5	7.9	8.2	8.5
1(3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる	70.9	76.5	77.8	0.6	0.8	0.9
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	8.9	9.4	10.6	0.4	0.5	0.6
2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	40.3	42.1	42.9	0.6	0.5	0.6
2(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	76.1	75.8	78.0	2.4	2.7	2.7
2(4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	49.2	52.0	55.1	0.6	0.6	0.8
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	65.4	68.5	70.7	1.4	1.4	1.5
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	48.4	48.3	45.6	0.6	0.7	0.8
3(3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	55.9	61.7	62.0	1.8	1.6	1.7
3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる	29.4	29.1	29.9	11.3	11.6	11.4
4(1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	56.5	52.7	50.6	6.9	6.2	6.1
4(2)イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	63.0	65.0	64.2	0.4	1.2	1.3
4(2)エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	53.6	55.2	57.5	1.0	1.4	1.5
4(3)力	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	52.2	58.6	59.8	2.0	2.2	2.3
4(3)キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる	56.1	59.1	60.9	2.0	2.3	2.4
4(3)ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	60.3	63.3	65.6	2.4	2.3	2.5

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合



(3) 小学校理科 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

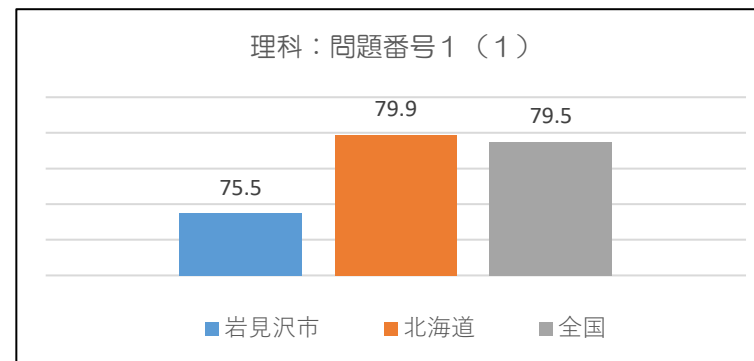
問題番号1(1)

問題の概要	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く
出題の趣旨	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
75.5	79.9	79.5	-4.0

(課題)

解答類型2、3、99の反応率が全国と比較して多い。このように解答した児童は、何を変える条件と変えない条件とするのかなど、条件制御の方法が分からないことから、条件を正しく制御した解決の方法を発想し、表現することができていないと考えられる。



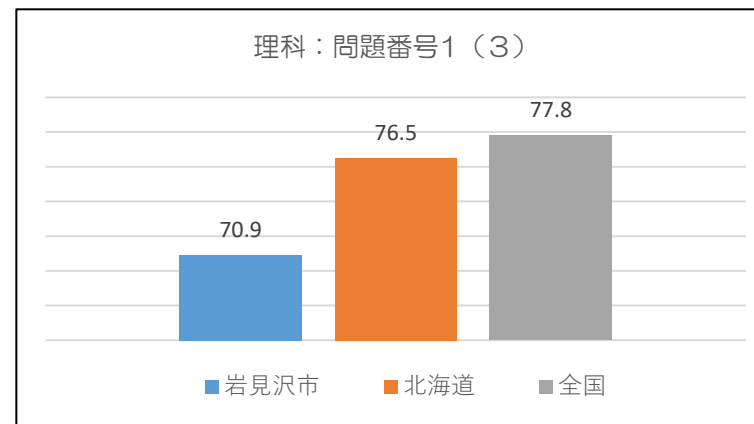
問題番号1(3)

問題の概要	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ
出題の趣旨	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
70.9	76.5	77.8	-6.9

(課題)

全国の解答類型4、5、6(正確は6)の反応率の合計は93.4%である。本市93.0%とほぼ同様である。このように解答した児童は、【考えられる時間】について正しく選択できている。その中で、解答類型4、5の反応率の合計は全国と比較し6.7ポイント多い。このように解答した児童は、【考えられる時間を選んだ理由】について正しく選択できていないことから、他の条件での結果を予想した理由について、表現することができていないと考えられる。

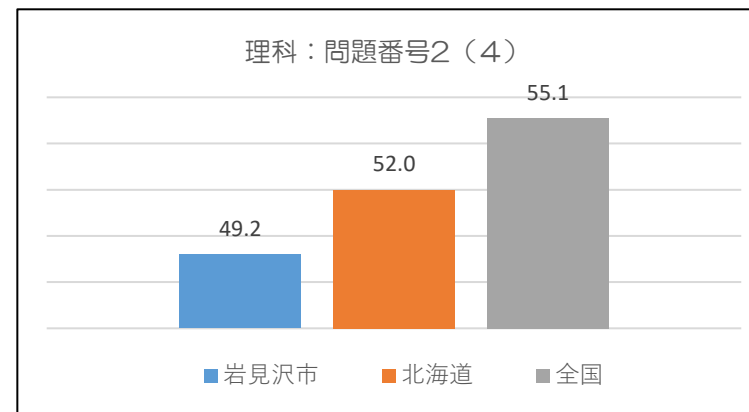


問題番号2(4)

問題の概要	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ
出題の趣旨	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
49.2	52.0	55.1	-5.9

(課題)



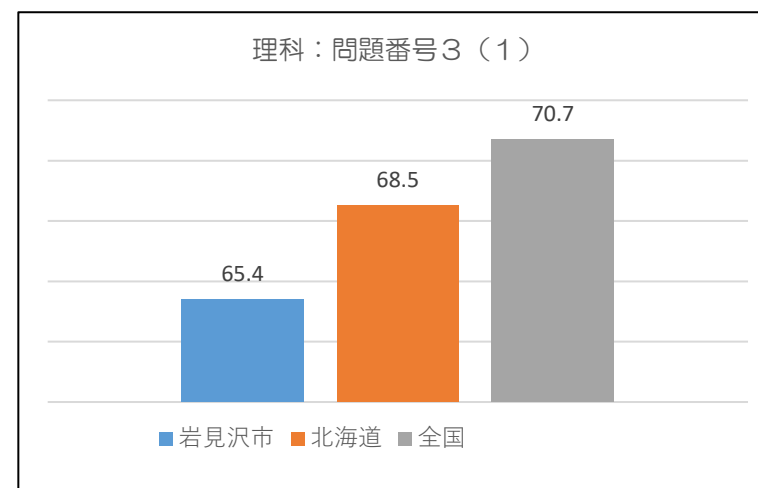
解答類型2と4の児童が全国と比較し多い。このように解答した児童は並列つなぎの特徴がわかっていないか、特徴を理解していても直列つなぎと並列つなぎの特徴と図を関係付けて捉えることに課題があると考えられる。

問題番号3(1)

問題の概要	ハチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く
出題の趣旨	ハチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
65.4	68.5	70.7	-5.3

(課題)

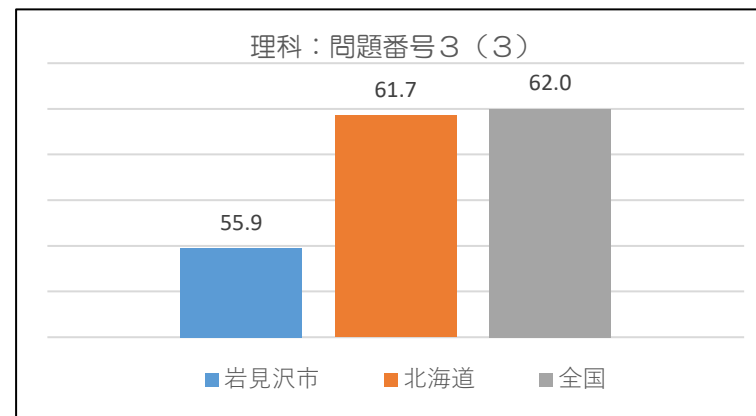


解答類型5の反応率は20.2%と全国と比べ3.6ポイント高い。おしべとめしべの部位と名称は分かっているが、花粉がめしべの先につくことを受粉ということが知識として身に付いていないと考えられる。

問題番号3 (3)

問題の概要	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ
出題の趣旨	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
55.9	61.7	62.0	-6.1



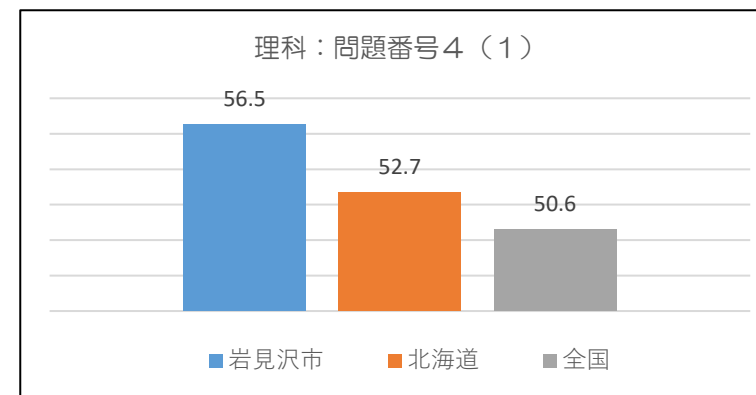
(課題)

解答類型2、3の反応率の合計は18.0%で全国と比較し4.6ポイント高い。このように解答した児童は、変える条件を1つにした実験を計画できているが、適した温度(室温)が発芽の条件であることを確かめる実験となっていないため、発芽するために必要な条件を正しく制御した解決の方法を発想できていないと考えられる。

問題番号4 (1)

問題の概要	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く
出題の趣旨	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
56.5	52.7	50.6	5.9



(成果)

本市の本設問の正答率は56.5%と全国と比較すると5.9ポイント上回っている。このように解答した児童は、問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができると考えられる。引き続き正解できなかった4割の児童への丁寧な指導が求められる。

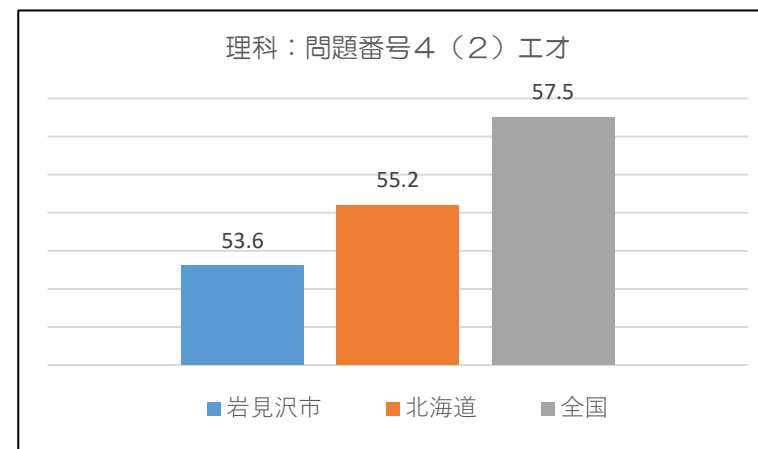
問題番号4 (2) エオ

問題の概要	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ
出題の趣旨	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
53.6	55.2	57.5	-3.9

(成果)

解答類型7、9の反応率の合計は19.8%であり。全国と比較すると3.2ポイント上回る。このように解答した児童は、水蒸気が氷と水の入ったコップの表面で冷やされることは理解できているが、冷やされた結果、どのように状態変化するかについての理解に課題があると考えられる。



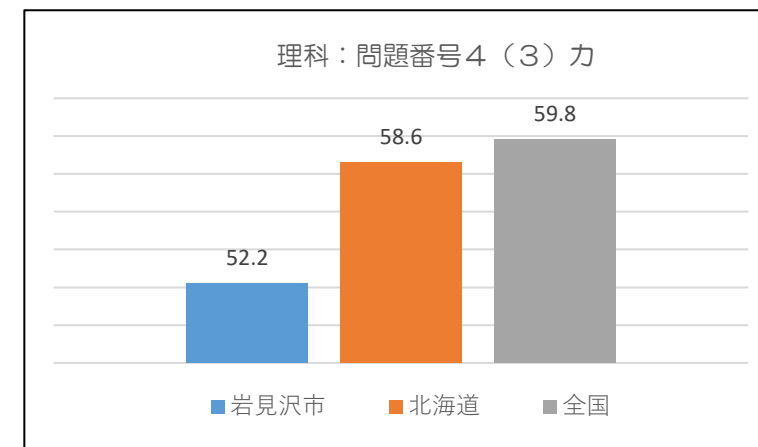
問題番号4 (3) カ

問題の概要	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ
出題の趣旨	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
52.2	58.6	59.8	-7.6

(課題)

全国に比べ、7.6ポイント下回り、解答類型についてもいずれも誤答解答として上回る。「水は、冷えると0℃で氷に変わる」という知識を基にこの事象について、その理由を表現できないことに課題があると考えられる。



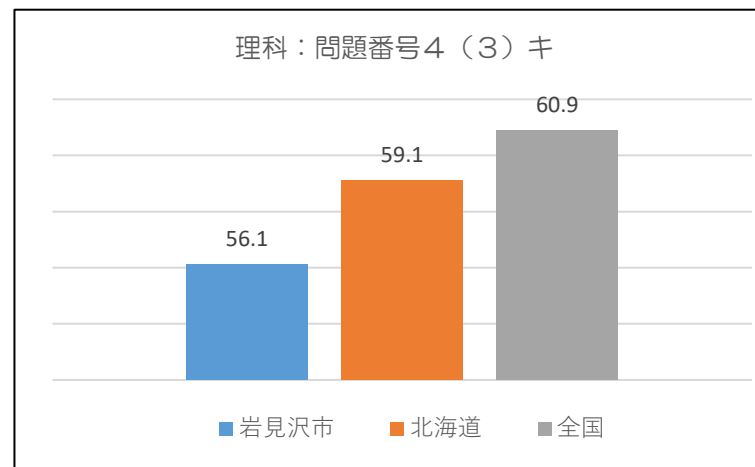
問題番号4 (3) キ

問題の概要	水が陸から海へ流れていくことについて、水の方と関連付けているものを選ぶ
出題の趣旨	氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
56.1	59.1	60.9	-4.8

(課題)

解答類型1、2、4の反応率の合計は41.5%であり、全国と比較すると5.4ポイント高い。このように解答した児童は、氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けた選択肢を選択できていないことから、理科で学習した知識を基に概念的に理解することに課題があると考えられる。



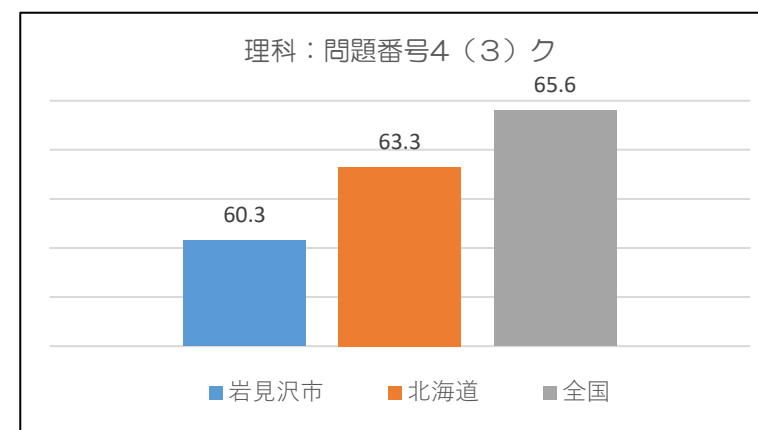
問題番号4 (3) ク

問題の概要	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ
出題の趣旨	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
60.3	63.3	65.6	-5.3

(課題)

解答類型4の反応率は17.2%である。このように解答した児童は、水から氷への状態変化に伴う体積変化について理解しているが、海水の温度が上昇することに伴い海面水位が上昇することの理由を、水の温度による体積変化と関係付けながら予想し、表現することに課題があると考えられる。



3ポイント以上差がある問題の領域等（9問）

問題番号	学習指導要領の領域	差
1(1)	地球（思考力・判断力・表現力）	-4.0
1(3)	地球（思考力・判断力・表現力）	-6.9
2(4)	エネルギー（生命）	-5.9
3(1)	エネルギー（知識・理解）	-5.3
3(3)	地球（思考力・判断力・表現力）	-6.1
4(2)エオ	粒子（知識・理解）	-3.9
4(3)カ	粒子（思考力・判断力・表現力）	-7.6
4(3)キ	地球（知識・理解）	-4.8
4(3)ク	粒子（思考力・判断力・表現力）	-5.3

内容別	知識・技能	4問
	思考力・判断力・表現力	5問

【考察】
 全国と比べて3ポイント以上差がある問題について、学習指導要領の領域別に見ると（エネルギー）で2問、（粒子）で3問、（地球）で4問全国を下回っていて、①思考力・判断力・表現力については、「海の氷がとけることと水温変化の関連性」「海面水位の上昇と水温変化の関連性」「土壌の性質と水の浸透」「実験計画と条件制御:ヘチマの種子の発芽条件を調べる実験において、条件を制御した解決方法を選択する問題」②知識技能（基礎的な知識と応用）については、「電気回路の基礎:乾電池を直列につなぎ、電磁石を強くする方法を選ぶ問題」「植物の生殖:ヘチマのおしべとめしべ、受粉に関する知識を問う問題」等において全国平均を大きく下回っている。したがって、科学的な知識を日常生活と関連させることや、実験を計画・実行する上での条件制御の理解を深める授業改善が求められる。

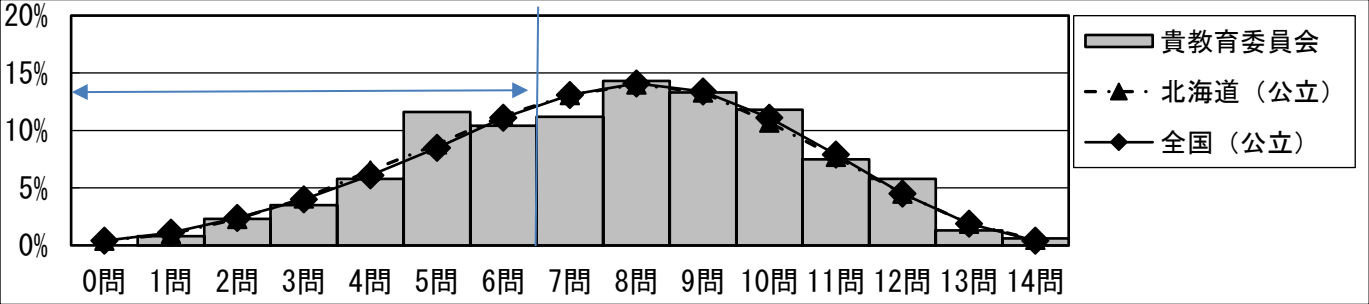
Ⅲ 教科に関する調査

3 中学校国語

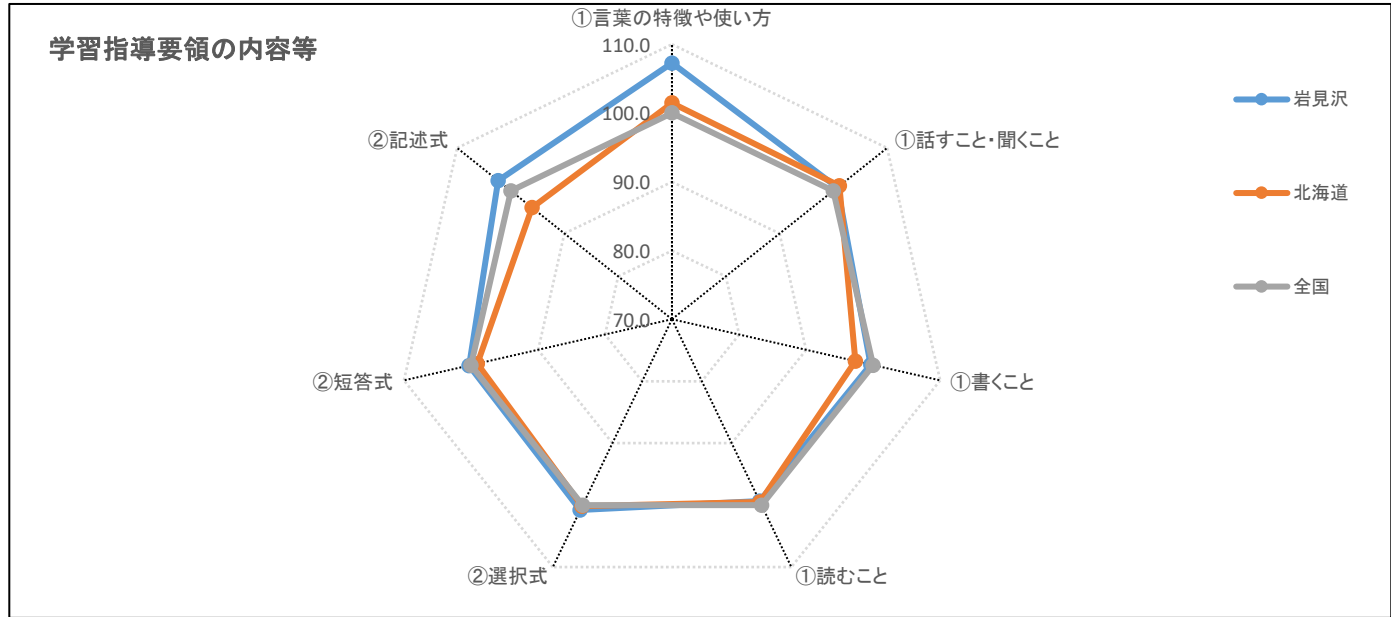
【概要】					
○ 平均正答率は55【54.7】%					
○ 平均正答率の小数値での比較では、全国との差は、+0.4ポイント					

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢市	519	7.7 / 14	55	8.0	2.7
北海道(公立)	33,467	7.6 / 14	54	8.0	2.7
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



■全国の「正答数の少ない層」に含まれる生徒の割合

- 割合: 岩見沢 34.4%
全国 33.6%
- 正答数: 14問中6問以下
- 全国との差: 0.8ポイント多い

正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)		
	岩見沢	岩見沢	道(公立)	国(公立)
14問	3	0.6	0.5	0.4
13問	7	1.3	1.9	1.9
12問	30	5.8	4.5	4.5
11問	39	7.5	7.7	7.9
10問	61	11.8	10.7	11.1
9問	69	13.3	13.3	13.4
8問	74	14.3	14.0	14.1
7問	58	11.2	13.1	13.1
6問	54	10.4	11.3	11.1
5問	60	11.6	8.8	8.5
4問	30	5.8	6.5	6.1
3問	18	3.5	4.1	4.0
2問	12	2.3	2.3	2.4
1問	4	0.8	1.0	1.1
0問	0	0.0	0.4	0.4

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	10.0問	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	6.0問

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】
四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と同数である。
生徒数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」ではほぼ同様(+1.2)。また、「正答数の少ない層」でも、全国と同様(-0.8)である。

(1) 中学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

〔思考力、判断力、表現力等〕

【話すこと・聞くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は100.8で、全国とほぼ同様である。令和6年度は95.1、令和5年度は96.7であり、昨年度より上昇している。
- ・問題番号では、2一、2二、2三、2四の4問が該当し、全て全国とほぼ同様となっている。
- ◆「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」ことに課題がある。〔2一、2四〕

【書くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は99.6で4.3ポイント下回り、やや低い。令和6年度は95.7で、令和5年度は99.2であり、昨年度より上昇している。
- ・問題番号では、1二、1三、1四、4一、4二の5問が該当し、3問が全国よりやや低い、または同様に低くなっている。
- ◆「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」ことに課題がある。〔1二〕
- ◆「標記を確かめて」或いは「語句の用法、叙述の仕方などを確かめて読み手の立場に立って、文章を整える」ことに課題がある。〔4一、4二〕

【読むこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は99.4で1.9ポイント上回り、全国とほぼ同様である。令和6年度は97.5、令和5年度は97.3であり、上昇傾向が続いている。
- ・問題番号では3一、3二、3四の3問が該当し、3一は-2.5、3二は+1.6で全国とほぼ同様、3四は-0.3ポイントで全国と同様となっている。
- ◆「表現の効果について」「文章の構成や展開について」に対し、「根拠を明確にして考える」ことに課題がある。〔3一、3四〕

【知識及び技能】

【言語の特徴や使い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は107.3で7.3ポイント上回っている。令和6年度は94.1、令和5年度は96.7であり、本年度は全国と比べて相当高い。
- ・問題番号では、1一、3三が該当し、1一は4.9ポイント、3三は2.2ポイント全国を上回っている。
- ◇「文脈に即して漢字を正しく使う」ことはできている。〔1一〕
- ◇「事象や行為を表す語彙について理解する」ことはできている。〔3三〕

【情報の扱い方に関する事項】

- ・本年度、出題なし

【我が国の言語文化に関する事項】

- ・本年度、出題なし

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- ・本市では、正答率がもっとも低かった問題は〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」の3四で、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」ことに課題が見られます。これは、全国的にも同じく正答率が最も低かった問題です。
- ・そのため、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」に関する各指導事項が示す資質・能力が身に付くよう、意図的・計画的に指導を重ねていくことが大切です。文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められます。その際、文章全体や部分における構成や展開を把握し、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味づけをすることが重要です。例えば、あとの展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果を考えることの意義を生徒が実感できるような学習活動が大切です。

(2) 中学校国語 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道) (公立)	(公全国) (立国)	岩見沢市	(公道) (公立)	(公全国) (立国)
1一	変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	40.1	37.9	35.2	0.0	0.2	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	78.8	80.5	82.5	0.0	0.1	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考慮することができるかどうかをみる	66.1	62.7	63.3	0.4	0.6	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	34.3	29.9	31.0	1.0	1.7	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	38.3	41.2	38.1	0.2	0.3	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	77.5	77.4	77.9	0.2	0.3	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる	73.8	73.7	73.4	0.8	0.5	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	24.7	22.7	23.2	3.7	4.9	4.0
3一	物語の始めに問かけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	77.5	79.1	80.0	0.2	0.4	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる	91.5	90.5	89.9	3.1	4.0	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	63.2	59.7	61.0	0.4	0.7	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	16.8	16.3	17.1	26.4	30.8	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	56.1	55.4	57.3	35.1	35.2	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	27.7	28.4	30.1	17.3	20.9	19.1

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 中学校国語 各教科の領域において正答率が全国と比べ3ポイント以上差のある問題

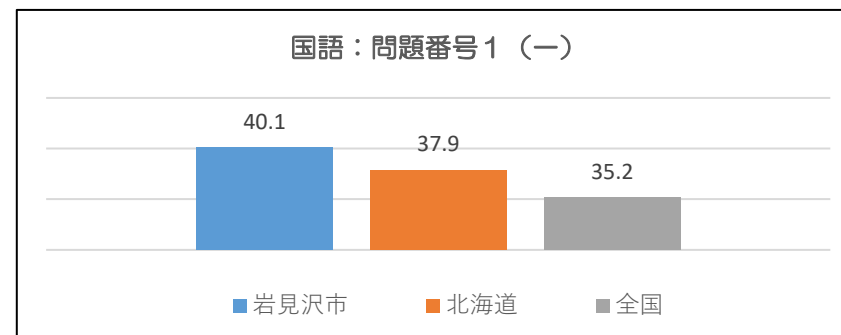
問題番号1一

問題の概要	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)
出題の趣旨	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
40.1	37.9	35.2	4.9

(成果)

全国と比べ、「文脈に即して漢字を正しく使う」ことができた生徒は4.9ポイント多い。一方、多くの誤答では、文脈から意味を捉えられなかった、または意味は捉えられたもののどの漢字を使うのが正しいか判断できなかったと考えられる。



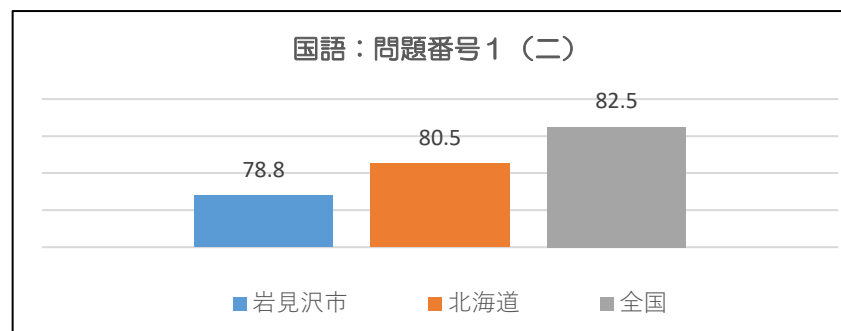
問題番号1二

問題の概要	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する
出題の趣旨	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
78.8	80.5	82.5	-3.7

(課題)

全国と比べ、「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」ことができていない生徒がやや多い。多くの誤答では、目的は捉えられているが、集めた材料から伝えたいことが明確に捉えられていないと考えられる。



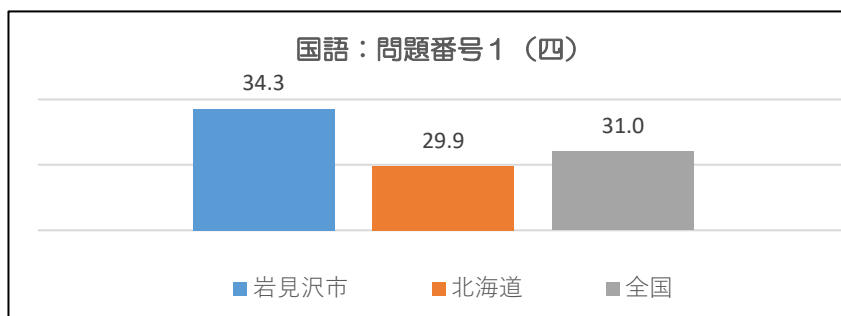
問題番号1四

問題の概要	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く
出題の趣旨	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
34.3	29.9	31.0	3.3

(成果)

全国と比べ、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことのできた生徒がやや多い。一方、多くの誤答では、接続する語句や指示する語句を適切に用いて、伝えたい事柄や意見とその根拠との関係を明確に書き表すことができていない。



3ポイント以上差がある問題の領域等（1問）

問題番号	学習指導要領の内容（領域）	差
1二	B 書くこと（思考力・判断力・表現力）	-3.7

内容別	知識及び技能	0問
	思考力・判断力・表現力等	1問

【考察】

全国と比べて3ポイント以上差がある問題は、学習指導要領の内容別に見ると、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題が1問となっている。「自分の考えが伝わる、根拠が明確な文章」を書くことは引き続き課題があると考えられる。

Ⅲ 教科に関する調査

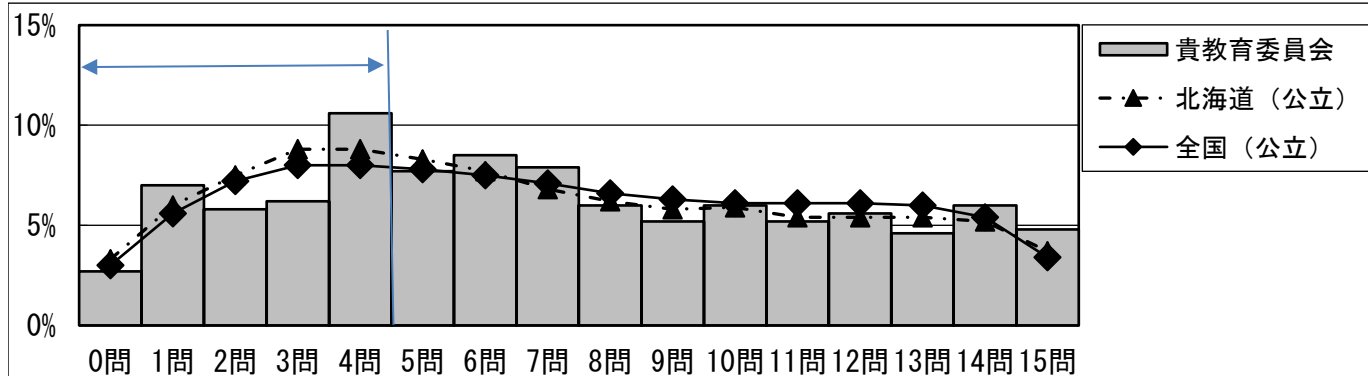
4 中学校数学

【概要】

- 平均正答率は48【48.1】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.2ポイント

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	517	7.2 / 15	48	7.0	4.3
北海道(公立)	33,474	7.0 / 15	47	6.0	4.3
全国(公立)	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

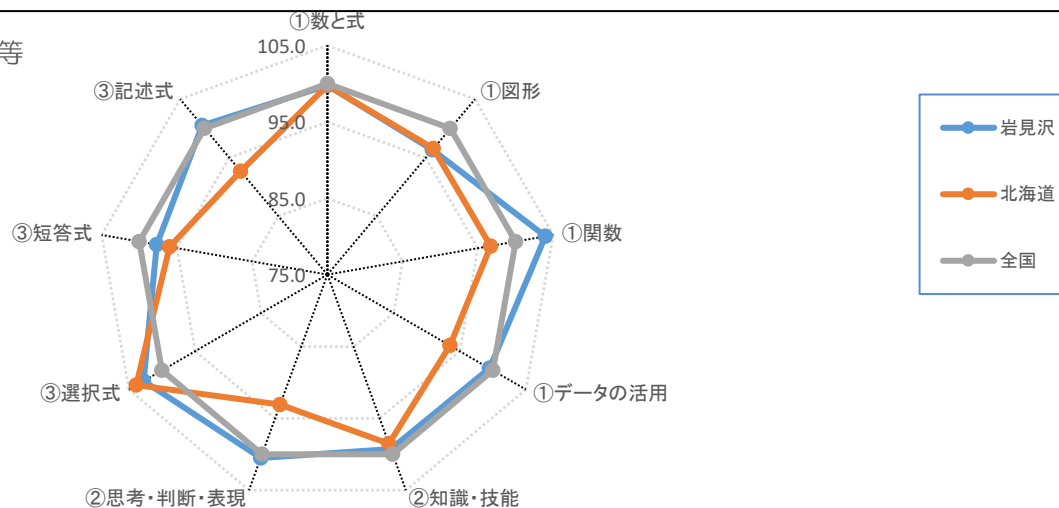


■全国の「正答数の少ない層」に含まれる生徒の割合

- 割合: 岩見沢 32.3%
全国 31.8%
- 正答数: 15問中4問以下
- 全国との差: 0.5ポイント多い

正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)		
	岩見沢	岩見沢	道(公立)	国(公立)
15問	25	4.8	3.7	3.4
14問	31	6.0	5.2	5.4
13問	24	4.6	5.4	6.0
12問	29	5.6	5.4	6.1
△ 11問	27	5.2	5.4	6.1
10問	31	6.0	5.9	6.1
9問	27	5.2	5.8	6.3
◇ 8問	31	6.0	6.2	6.6
7問	41	7.9	6.8	7.1
6問	44	8.5	7.7	7.5
5問	40	7.7	8.3	7.8
▽ 4問	55	10.6	8.8	8.0
3問	32	6.2	8.8	8.0
2問	30	5.8	7.5	7.2
1問	36	7.0	6.0	5.6
0問	14	2.7	3.3	3.0

学習指導要領の領域等



※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	7.0問	6.0問	7.0問
▽ 第1四分位	4.0問	3.0問	4.0問

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については、岩見沢市と全国は同じ。生徒数の割合は全国と比べ「正答数の多い層」では少ない。また、「正答数の少ない層」はやや少ない。

(1) 中学校数学 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【数と式】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、99.8%で0.2ポイント下回っている。令和6年度は97.1、令和5年度は102.3であり、昨年度より上昇した。
- 問題番号では1、2、6(1)、6(2)、6(3)の5問が該当し、1は全国をやや上回り、2と6(3)は下回っている。
- ◇「素数の意味を理解する」ことはできている。〔1〕
- ◆「数量を文字を用いた式で表すこと」ことに課題がある。〔2〕
- ◆「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」ことに課題がある。〔6(3)〕

【図形】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は96.3%で3.7ポイント下回っている。令和6年度は99.3で、令和5年度は99.7であり、下降傾向である。
- 問題番号では、3、9(1)、9(2)、9(3)が該当し、9(2)は全国と同様だが、3と9(1)、9(3)は全国を下回っている。
- ◆「多角形の外角の意味を理解している」ことに課題がある〔3〕
- ◆「証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだす」ことに課題がある。〔9(1)〕
- ◆「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」ことに課題がある。〔9(3)〕

【関数】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は103.9%で3.9ポイント上回った。令和6年度は99.0で、令和5年度は106.6であり、昨年度より上昇した。
- 問題番号では、4、8(1)、8(2)が該当し、8(1)が全国を上回り、4と8(2)は全国とほぼ同じである。
- ◇「一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること」ことはできている。〔4〕
- ◇「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること」ことはできている。〔8(1)〕
- ◇「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」ことはできている。〔8(2)〕

【データの活用】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は99.5で0.5ポイント下回っている。令和6年度は95.9で、令和5年度は91.8であり、昨年度より上昇した。
- 問題番号では、5、7(1)、7(2)が該当し、7(1)、7(2)は全国とほぼ同様だが、5は全国を4.0ポイント下回っている。
- ◇「必ず起こる事柄の確率について理解している」ことはできている。〔7(1)〕
- ◇「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」ことはできている。〔7(2)〕
- ◆「相対度数の意味を理解している」ことに課題がある。〔5〕

② 課題から見られる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べ、関数以外の3つの領域で正答率が低くなっています。特に、2「数量を文字を用いた式で表す」問題で4.3ポイントの差がついており、事象に即して解釈したことを数学的に表現することや、数量を文字を用いた式で表すことに課題が見られます。そのため、例えば、具体的な数や言葉を使った式などを利用して数量を捉えたり、表した数量が正しいかどうかを事象と関連付けて吟味したりする活動を取り入れるなどして、割合や文字式の意味の理解を深めるとともに、数量を文字を用いた式に表すことができるようにすることが大切です。
- また、3「相対度数の意味を理解している」問題では全国と比べ4.0ポイントの差がついており、与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題が見られます。階級の相対度数と階級の度数を混同している生徒もいると考えられます。そのため、階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導することが重要です。

(2) 中学校数学 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道) (公立)	(公全国) (立国)	岩見沢市	(公道) (公立)	(公全国) (立国)
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	35.4	40.5	31.8	0.2	0.5	0.7
2	果汁40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	47.6	48.4	51.9	6.0	8.8	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	54.4	57.4	58.1	1.0	2.0	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる	35.8	33.1	34.7	8.7	9.7	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	38.5	36.2	42.5	10.4	11.0	9.4
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	63.8	62.9	62.8	5.0	5.4	4.6
6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	26.5	25.1	25.7	23.6	27.8	24.9
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	43.7	40.0	45.2	20.9	24.0	20.2
7(1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	79.1	76.1	77.4	3.3	3.9	3.2
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	57.3	52.1	55.9	1.4	3.1	2.2
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	75.2	70.5	71.9	1.0	2.4	2.3
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	39.3	36.1	38.0	34.8	37.8	35.0
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる	55.9	57.1	58.5	0.4	1.2	1.1
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる	36.8	35.1	36.3	6.6	8.8	7.2
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	32.3	30.1	33.2	33.3	34.8	31.5

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 中学校数学 各教科の領域において正答率が全国と比べ3ポイント以上差がある問題

【A 数と式】

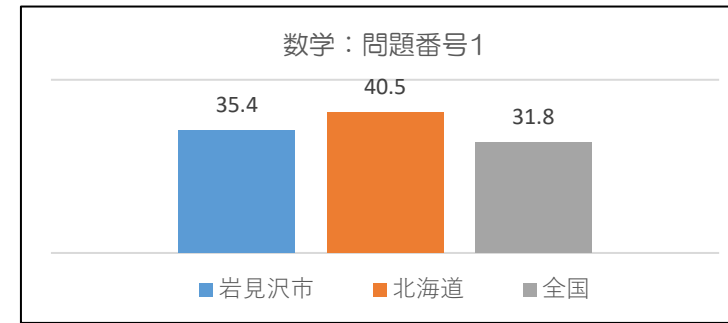
問題番号1

問題の概要	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ
出題の趣旨	素数の意味を理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
35.4	40.5	31.8	3.6

(課題)

全国と比べ、「素数の意味を理解する」ことができている生徒が多い。整数を様々な視点で分類し、1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解している。



【A 数と式】

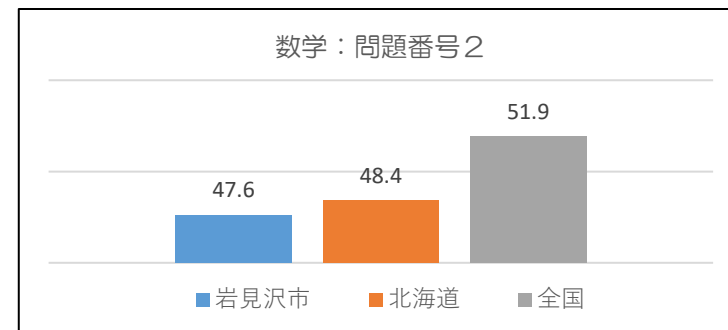
問題番号2

問題の概要	果汁40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す
出題の趣旨	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
47.6	48.4	51.9	-4.3

(課題)

全国と比べ、「数量を文字を用いた式で表す」ことができている生徒が多い。本設問では、数量や数量の関係を捉え、それらを文字を用いた式で表す必要があるが、多くの誤答ではオレンジの果汁の量を計算する方法や40%の表す意味が理解できていない。



【B 図形】

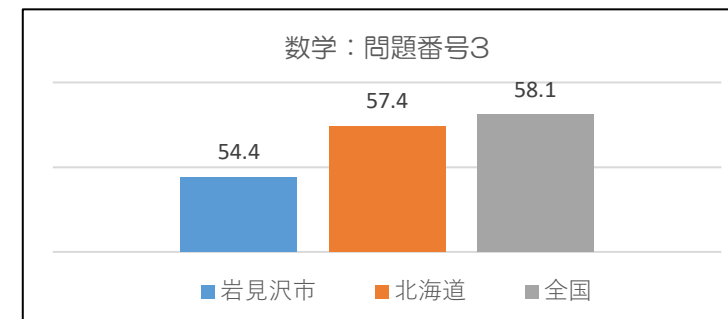
問題番号3

問題の概要	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める
出題の趣旨	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
54.4	57.4	58.1	-3.7

(課題)

全国と比べ、「多角形の外角の意味を理解する」ことができている生徒が多い。多くの誤答では、頂点Aにおける外角を、 360° から頂点Aにおける内角をひいた角であると捉えていることが見受けられる。



【D データの活用】

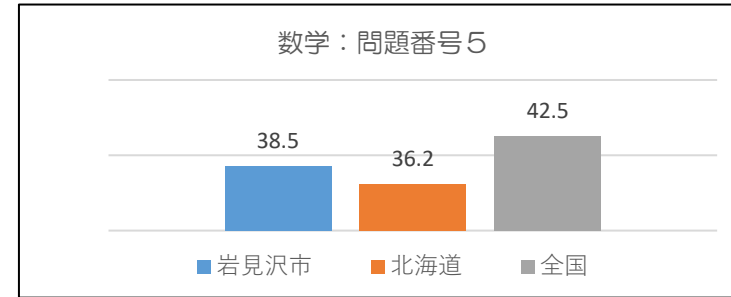
問題番号5

問題の概要	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める
出題の趣旨	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
38.5	36.2	42.5	-4.0

(課題)

全国と比べ、「相対度数の意味を理解する」ことができていない生徒が多い。多くの誤答では、階級の相対度数と階級の度数を混同している生徒がいると考えられる。



【C 関数】

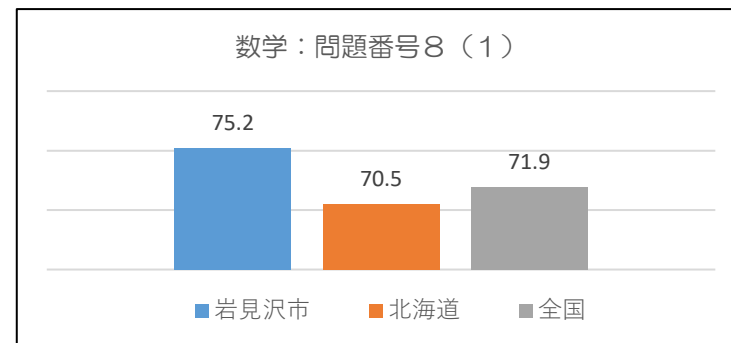
問題番号8(1)

問題の概要	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ
出題の趣旨	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
75.2	70.5	71.9	3.3

(成果)

全国と比べ、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る」ことができていない生徒が多い。表やグラフと具体的な事象を対応させ、表やグラフから読み取ったことが具体的な事象では何を表しているかを理解できている。



3ポイント以上差がある問題の領域等(5問)

問題番号	学習指導要領の領域	差
2	A 数と式 (知識・技能)	-4.3
3	B 図形 (知識・技能)	-3.7
5	D データの活用 (知識・技能)	-4.0

内容別	知識・技能	3問
	思考・判断・表現	0問

【考察】
 全国と比べて-3ポイント以上差がある問題について、学習指導要領の領域別に見ると(A数と式)、(B図形)、(Dデータの活用)でそれぞれ1問となっています。この3領域で、(B図形)領域は3年続けて下降していますが、(A数と式)、(Dデータの活用)領域は昨年度よりは上昇し、全国との差が縮まっています。中でも(A数と式)の事象における数量を捉える問題では、数量やその関係に着目して文字を用いた式に表したり、式の意味を読み取ったりすることができるようにするとともに、文字を用いることの必要性や意味を理解し、そのよさを実感できるように指導する必要があります。

Ⅲ 教科に関する調査

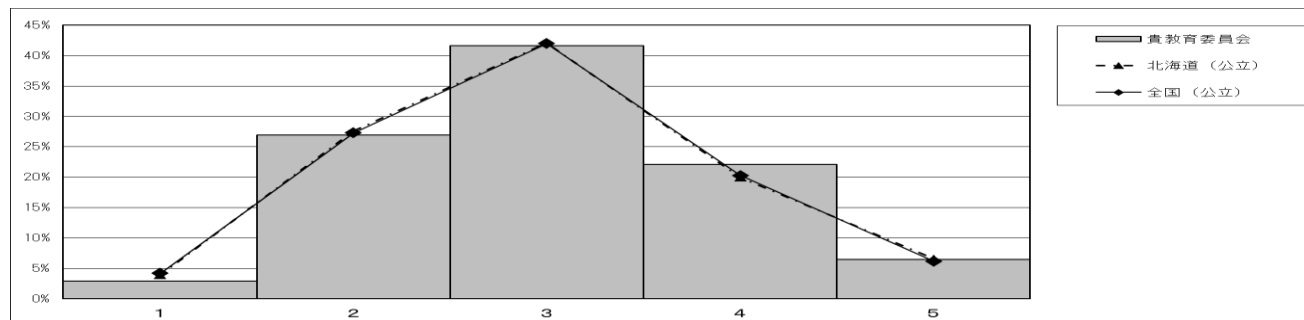
4 中学校理科

【調査の概要】

- 中学理科についてはオンラインCBTシステムによるオンライン方式での実施
- 複数日時で分散実施、知識・技能にとどまることなく「知識を実生活で活用する力」など資質・能力を問う問題
- 動画・アニメーションを使った出題、操作型・インタラクティブ形式の問題、選択肢の多様化
- 個に応じた問題

	生徒数	IRTスコア	標準偏差
岩見沢	524	508.0	119.1
北海道（公立）	33,370	505.0	126.5
全国（公立）	864,634	503.0	124.0

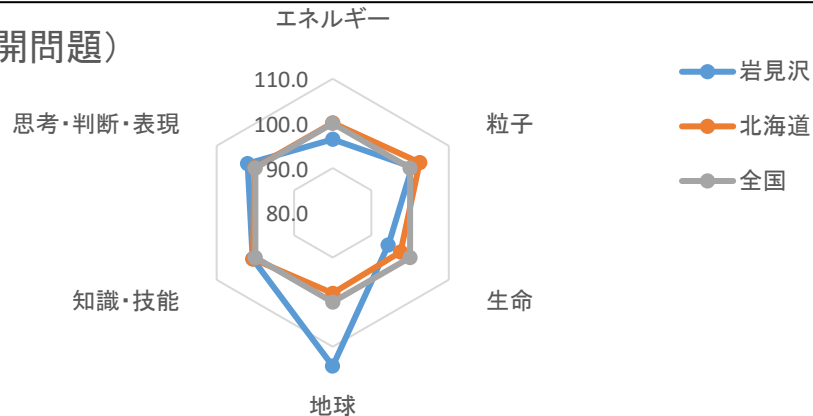
IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



【結果の概要】

- 横軸を5つのバンドで示し、1が低学力層、5が高学力層として、縦軸が各バンドに属する生徒の割合
- 岩見沢市ではバンド3には約42%が分布し全国、全道と、ほぼ同様の傾向
- バンド1には約4%が分布、バンド2には約27%が分布し全国とほぼ同じ傾向で、基礎段階にとどまる生徒がやや多い
- バンド4には、約22%が分布し全国よりもやや多め、バンド5は全国とほぼ横並び
- 岩見沢市の生徒はバンド2、バンド3が厚く、バンド4が全国より多い
- バンド2の生徒の基礎知識・理解の定着とバンド4以上の生徒への発展的な課題で伸ばす取組が必要と思われる

学習指導要領の領域等(公開問題)



(1) 中学校理科 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【エネルギー】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、96.4%で0.6ポイント下回っている。
- 問題番号では、3(1)、3(2)が下回っている。他の3問については全国を上回っている。
- 全国を下回ったのは、3(1)「設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する」仮説に基づいた実験結果の予想を立てる能力に関する問題で、全国平均を大きく下回っています。この問題は「思考・判断・表現」の評価観点に該当する。
- また、3(2)「抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する」も下回り、抵抗に関する知識を応用し、電気回路における抵抗の理由を理解する問題で、「知識・技能」の評価観点に該当する。

【粒子】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、101.5%で全国とほぼ同様である。
- 問題番号では、1(2)、1(5)、1(6)、4(1)、4(2)、5(1)、5(2)、7(2)、の8問が該当し、5(2)は全国を大きく下回っているが、あとは全て全国とほぼ同じか上回っている。
- 全国を下回ったのは、5(2)「実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す」問題で、化学変化の判断とそのモデル表現について問われていて、この問題は「思考・判断・表現」の評価観点に該当する。

【生命】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、97.9%で2.1ポイント下回っている。
- 問題番号では、1(4)、6(1)、6(2)、7(1)、7(2)の5問が該当し、6(1)は全国を大きく下回っているが、あとは全て全国を上回っている。
- 全国を下回ったのは、6(1)「牧野富太郎の『ノジグク』のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する」問題で、この問題は「思考・判断・表現」の評価観点に該当する。

【地球】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、114.3%で14.3ポイント上回っている。
- 問題番号では、1(3)、8(1)、8(2)、9(1)、9(2)、の5問が該当し、1(3)は全国を下回っているが、あとは全国を上回っている。
- 全国を下回ったのは、1(3)「地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する」問題で、地層の性質から水が染み出す場所を判断する能力を問うもので、この問題は「思考・判断・表現」の評価観点に該当する。

② 課題から見られる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べ「エネルギー」の領域の正答率が低く、「粒子」「生命」の領域において全国とほぼ同様、「地球」領域は高くなっている。各問題においても全国平均を上回る正答率を示している項目が多い。
- 正答率が50%を下回る問題が10問ある。また、全国の正答率と比べて、10ポイント以上下回る問題が3問ある。
- 全国と比較して3ポイント以上下回る問題は、「1-(3)地層と水の関係性に関する応用と思考力」「3-(2)電気抵抗の概念理解と回路図の読み取り」「6-(1)植物の構造の詳細知識と表現技能」「5-(2)化学変化の分析とモデルによる表現」「3-(1)科学的探究における仮説検証と反証的思考」これらの状況から、授業においては、知識の伝達や有無だけでなく、観察・実験を取り入れ体験的な学習を進めるとともに、複数の情報を関連付けて問題を解決させる、観察結果を科学的に表現させる、抽象的なモデルを用いて現象を説明させる、仮説を立てて検証する探究的な学習を進めるなどの授業改善が求められる。

(3) 中学校理科 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道)	(公全国)	岩見沢市	(公道)	(公全国)
1(1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	54.8	52.1	51.9	0.0	0.2	0.2
1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	50.2	52.0	46.2	5.5	6.8	8.0
1(3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる	33.0	36.0	36.2	0.2	0.5	0.6
1(4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	31.1	29.5	29.7	0.0	0.1	0.2
1(5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	45.8	46.4	44.9	8.6	7.9	8.5
1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	84.5	79.3	79.4	8.4	10.3	9.9
2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	19.2	15.3	14.0	1.0	2.1	1.9
2(2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストーリーの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	96.6	94.9	94.6	0.0	0.2	0.1
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	18.4	32.9	34.9	0.0	0.2	0.2
3(2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	81.6	85.7	85.2	0.0	0.1	0.1
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	50.6	52.8	50.4	0.0	0.1	0.1
4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	97.6	93.6	92.8	0.0	0.1	0.1
5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	92.1	94.1	93.0	0.0	0.1	0.1
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	23.7	35.0	35.6	3.5	4.6	4.6
6(1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	55.3	65.0	65.9	0.0	0.2	0.2
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	42.1	39.5	41.9	0.0	0.1	0.1
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	34.1	34.1	34.8	0.0	0.2	0.2
7(2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	56.7	53.2	51.6	0.0	0.2	0.2
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる	48.2	39.0	42.2	0.9	3.1	3.2
8(2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	28.1	18.6	18.1	0.0	0.9	1.1
9(1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りに関して問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる	41.8	32.0	31.8	0.0	0.3	0.3
9(2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	62	57.1	58.1	0.0	0.2	0.3

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

(3) 中学校理科 各教科の領域において全国と比べ3ポイント程度の差がある問題

【粒子】

問題番号 1 (2)

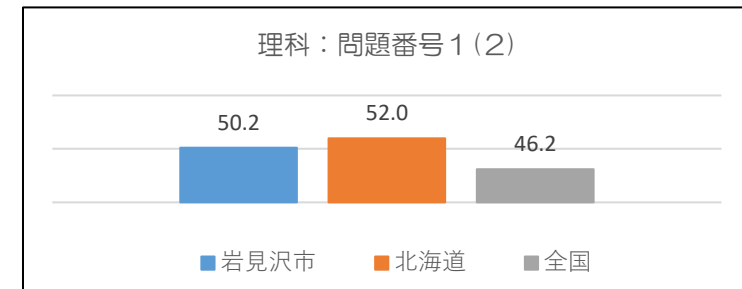
難易度：5

問題の概要	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する
出題の趣旨	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
50.2	52.0	46.2	4.0

(成果)

5割の生徒が「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する」力が身に付いているが、残り5割の生徒への丁寧な指導が必要である。



【地球】

問題番号 1 (3)

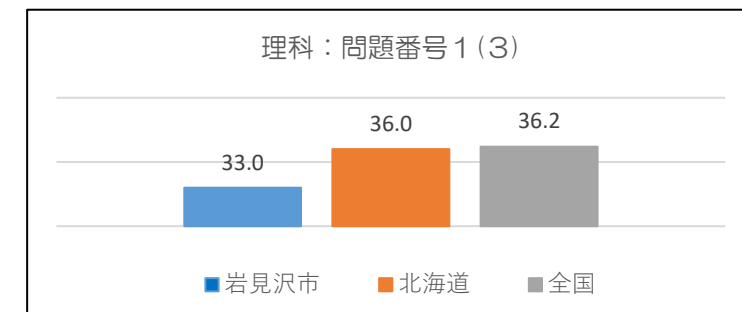
難易度：5

問題の概要	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する
出題の趣旨	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
33.0	36.0	36.2	-3.2

(課題)

小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて分析して解釈することに課題があると考えられる。



【粒子】

問題番号 1 (6)

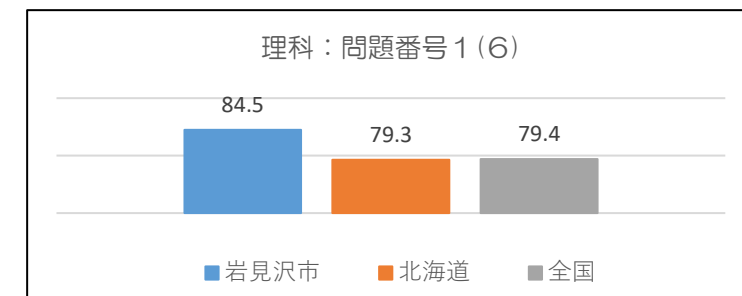
難易度：3

問題の概要	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する
出題の趣旨	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
84.5	79.3	79.4	5.1

(成果)

8割以上の生徒が、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができている。



【エネルギー】

問題番号2(1)

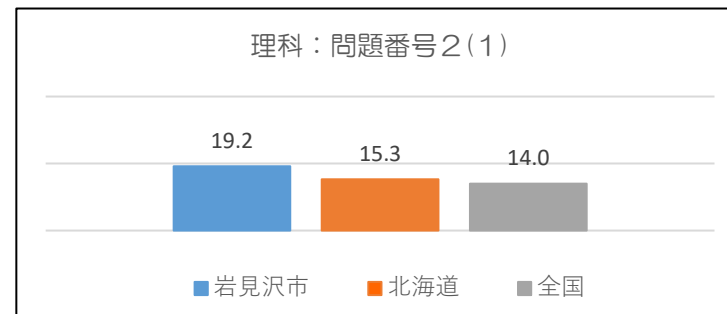
難易度：5

問題の概要	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する
出題の趣旨	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
19.2	15.3	14.0	5.2

(成果)

全国よりも5ポイント近く高いが、正解率が20%を下回り、「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる」力を高める必要がある。



【エネルギー】

問題番号3(1)

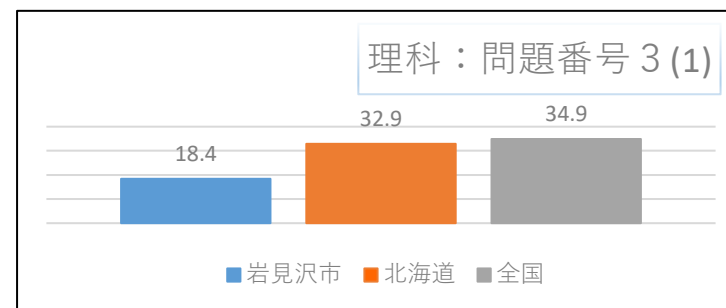
難易度：5

問題の概要	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する
出題の趣旨	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
18.4	32.9	34.9	-16.5

(課題)

解答類型1の反応率が52.6%と全国と比較し15ポイント高い、加える電圧の大きさが大きくなると流れる電流の大きさも大きくなることは理解しているが、加える電圧の大きさと流れる電流の大きさが比例の関係であると理解できていない生徒が多いと考えられる。



【エネルギー】

問題番号3(2)

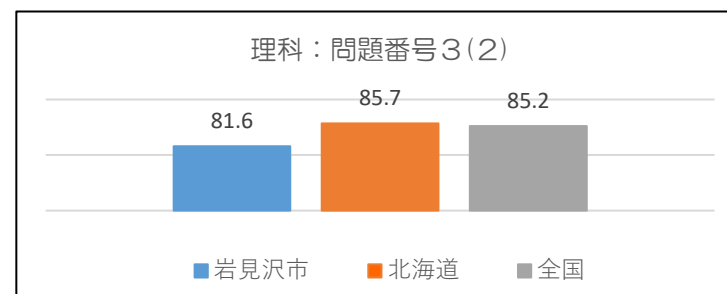
難易度：2

問題の概要	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する
出題の趣旨	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
81.6	85.7	85.2	-3.6

(課題)

解答類型4の反応率が15.8%と全国と比較し9.5ポイント高い、電気回路における抵抗の働きについて、直流を交流に変えたり、電流の向きを変えたりすると誤って捉えている生徒が多いと考えられる。



【エネルギー】

問題番号4(2)

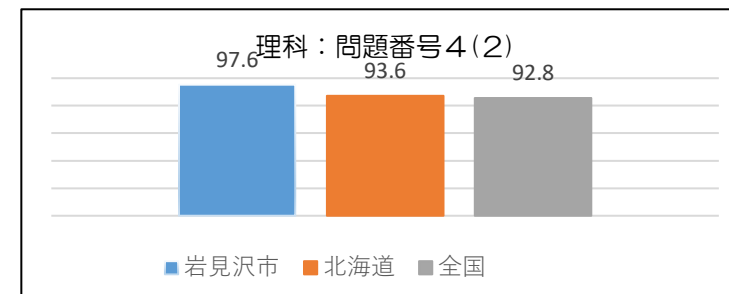
難易度：2

問題の概要	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する
出題の趣旨	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
97.6	93.6	92.8	4.8

(成果)

多くの生徒が、火災における適切な避難行動として、気体の性質に関する知識と関連させ身に付けている。



【粒子】

問題番号5(2)

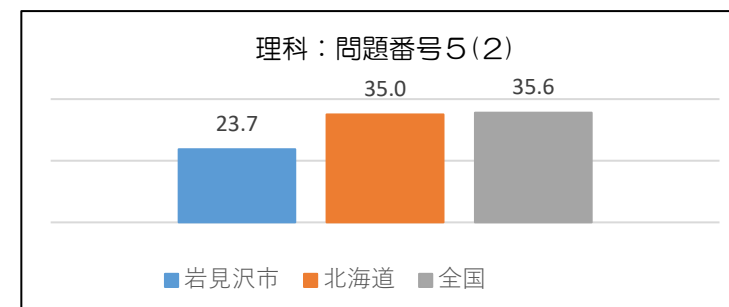
難易度：4

問題の概要	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す
出題の趣旨	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
23.7	35.0	35.6	-11.9

(課題)

解答類型3の反応率が11.4%と全国と比較し3ポイント高い、化学変化の前後で何が反応して何が生成するかは理解できているが、原子の数が変わらないことは理解できていない生徒が多いと考えられる。



【生命】

問題番号6(1)

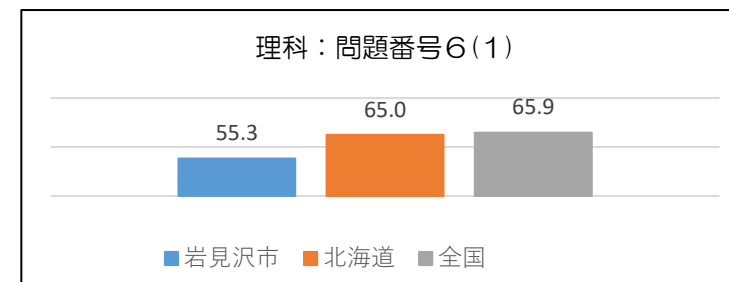
難易度：4

問題の概要	牧野富太郎の「ノジグク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する
出題の趣旨	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
55.3	65.0	65.9	-10.6

(課題)

解答類型4の反応率が15.8%と全国と比較し5.6ポイント高い。葉の細胞や茎の断面などを調べたいときに、スケッチから調べることができると考えている。図4には葉の細胞や茎の断面などが示されていないため、調べることができない。このことから、スケッチに関する知識及び技能が身に付いていない生徒が多いと考えられる。



【粒子・生命】

問題番号7(2)

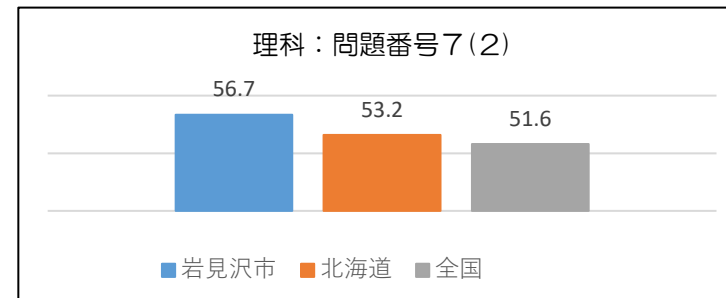
難易度：5

問題の概要	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する
出題の趣旨	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
56.7	53.2	51.6	5.1

(成果)

約57%の生徒が、分解に関する身近な事象について、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識を概念として身に付けている。4割近い、誤答の生徒への丁寧な指導が必要である。



【地球】

問題番号8(1)

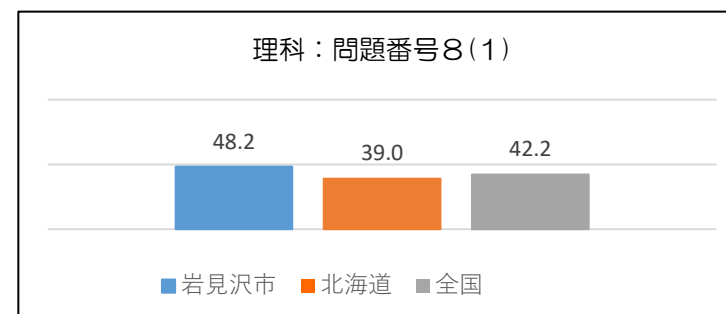
難易度：4

問題の概要	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する
出題の趣旨	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
48.2	39.0	42.2	6.0

(成果)

5割近い生徒が正解しているが、「地域の言い伝えを科学的に探究する」力をさらに身に付けさせる必要がある。



【地球】

問題番号8(2)

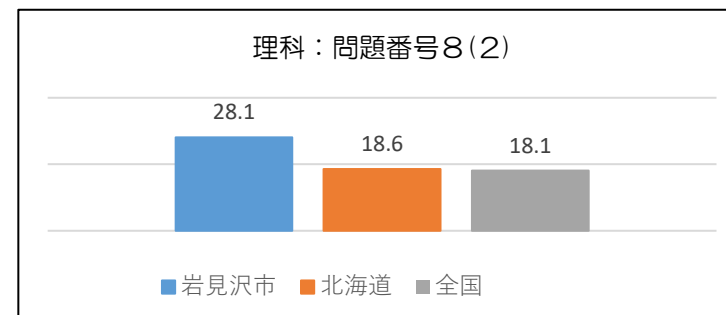
難易度：5

問題の概要	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す
出題の趣旨	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
28.1	18.6	18.1	10.0

(成果)

「検討して表現できる」生徒が全国と比較し10ポイント高い。しかしながら正答率は3割以下にとどまっており中位・下位層への丁寧な指導が求められる。



【地球】

問題番号9(1)

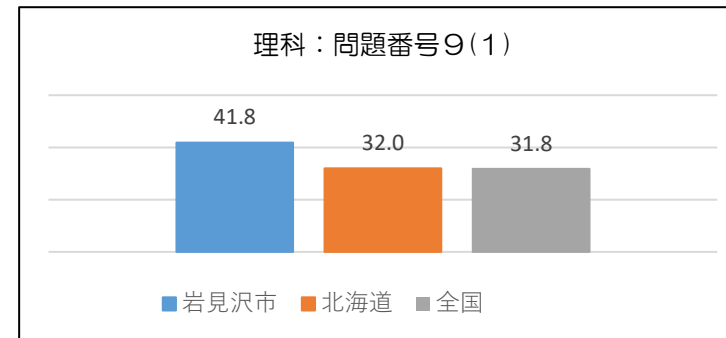
難易度：5

問題の概要	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する
出題の趣旨	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
41.8	32.0	31.8	10.0

(成果)

4割の生徒が「探究の過程の見通しについて分析し解釈できる」力を身に付けつつある。探究型の授業の成果と考えられる。



【地球】

問題番号9(2)

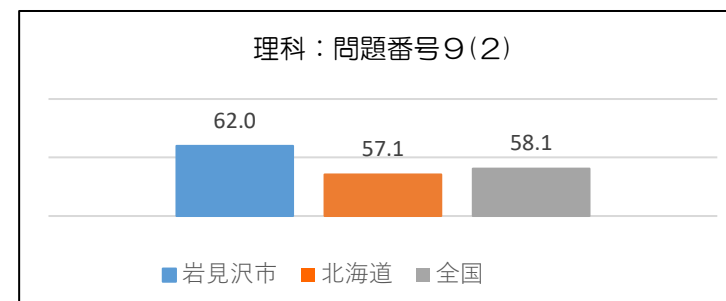
難易度：4

問題の概要	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する
出題の趣旨	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
62.0	57.1	58.1	3.9

(成果)

「気圧の知識が概念として身に付いているかどうか」について6割の生徒が知識として身に付けている。誤答の4割の生徒への丁寧な指導が求められる。



3ポイント以上差がある問題の領域等（5問）

問題番号	学習指導要領の領域	差
1(3)	地球（思考・判断・表現）	-3.2
3(1)	エネルギー（思考・判断・表現）	-16.5
3(2)	エネルギー（知識・技能）	-3.6
5(2)	粒子（思考・判断・表現）	-11.9
6(1)	生命（知識・技能）	-10.6
内容別	知識・技能	2問
	思考・判断・表現	3問

【考察】

全体の平均では、全国と同程度だが、領域・設問ごとの差が大きく、学力の凹凸が課題。特に「電気回路の仮説予想」「化学変化のモデル表現」「スケッチ技能の理解」で差が大きく、知識を活用し表現・説明する力が不足していると考えられる。一方で「地層モデルの活用」「気圧に関する探究の振り返り」などでは全国を上回り、図やモデルを使った探究的な活動に強みがあると考えられる。この結果を踏まえ、「知識を基にした予想や説明を伴う課題」を重点に①仮説や予想を立てさせる活動 ②モデルやスケッチを用いた表現活動 ③結果と根拠を結びつける考察 を継続的に授業に取り入れることが求められる。

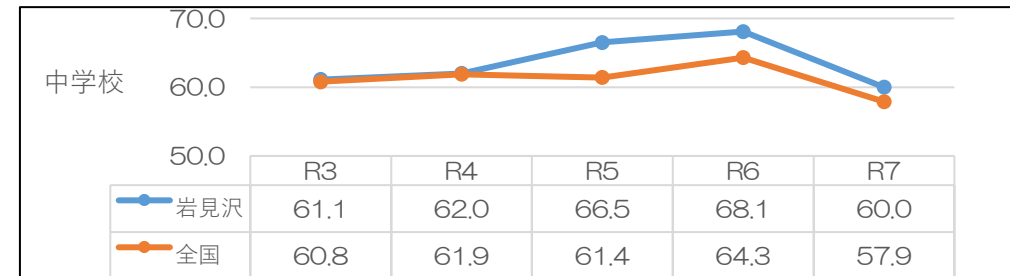
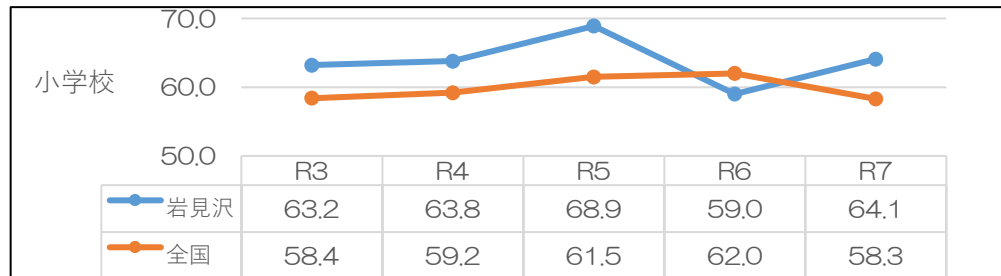
IV 児童生徒の質問調査の結果

1 学習について

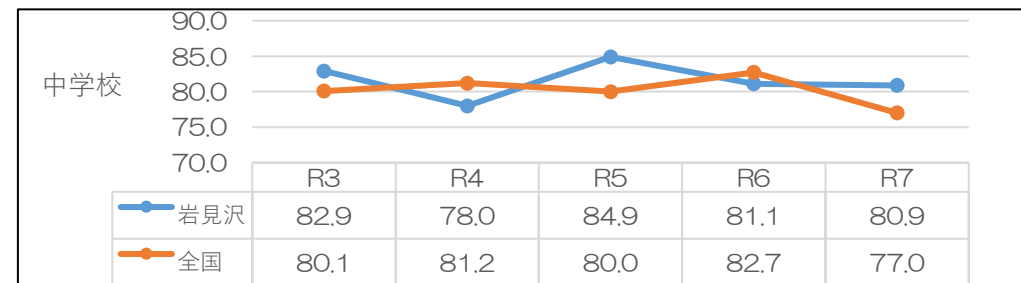
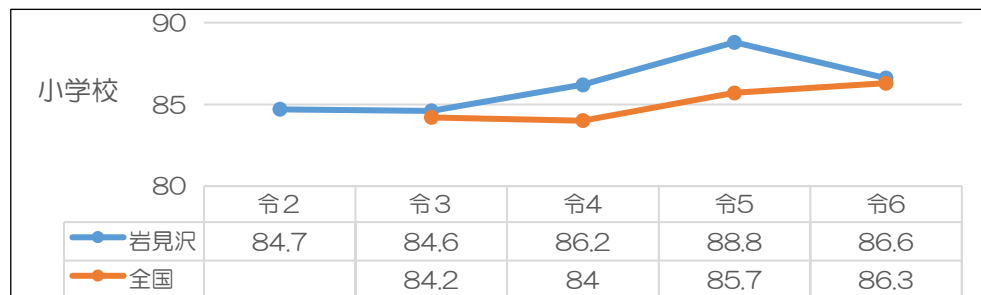
(1) 小・中学校国語 児童生徒質問調査

- 小・中学校国語についての設問において全国と同様の傾向が見られるが、本市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- (45)「国語の勉強は好きですか」の問いに肯定的に回答している割合は、小・中学校共に全国を上回っている。
- (46)「国語の授業の内容はよくわかりますか」の問いに肯定的に回答している割合は小学校は全国とほぼ同じだが減少、中学校は全国を上回っている。
- (47)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合が小・中学校共に全国を上回っており、中学校は上昇傾向が続いている。

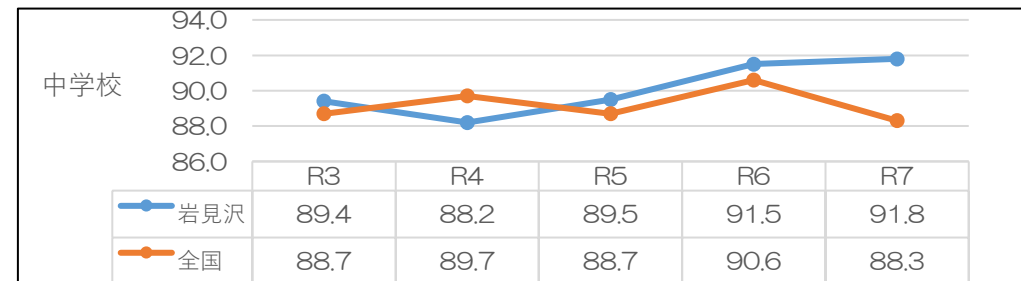
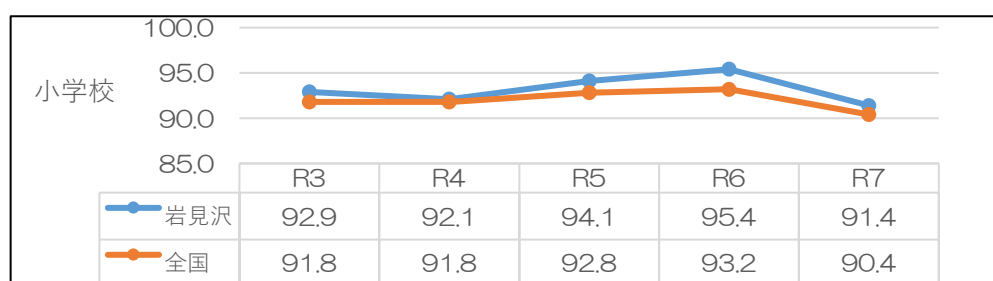
(45)国語の勉強は好きだ



(46)国語の授業の内容はよく分かる



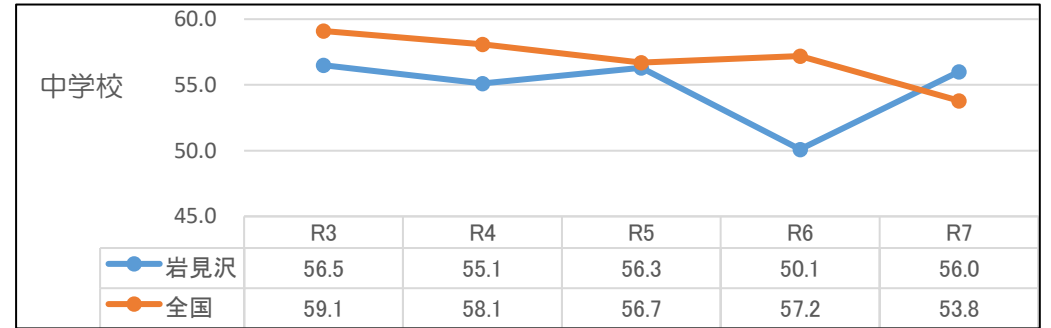
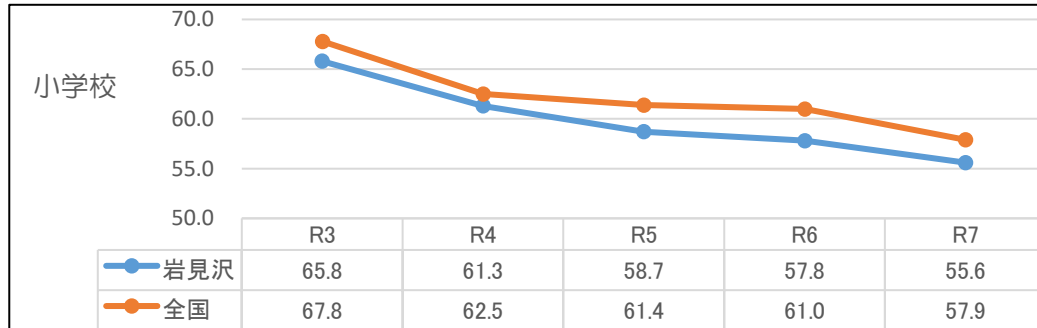
(47)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



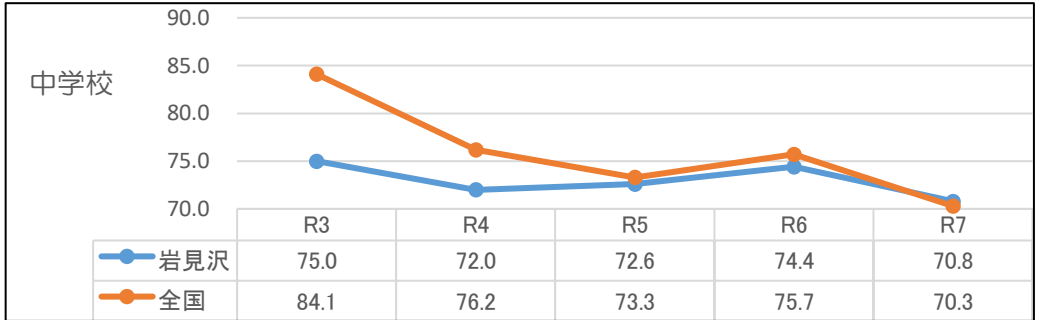
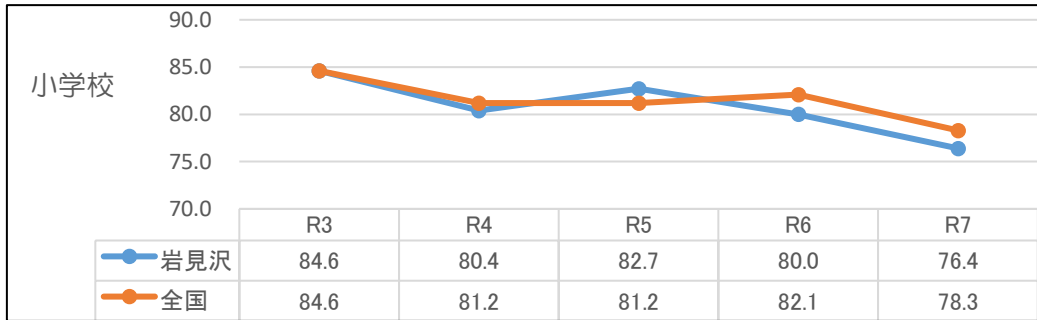
(2) 小・中学校算数(数学) 児童生徒質問調査

- 小学校算数・中学校数学の設問については、多くの設問への回答において全国と同様の傾向がみられ、本市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- (53)「算数(数学)の勉強は好きですか」の問いへの肯定的な回答の割合が、小学校は全国をやや下回り減少が続き、中学校は全国とほぼ同様だが、大きく増加した。
- (54)「算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか」の問いへの肯定的な回答の割合は、小中とも減少傾向で、小・中学校とも全国とほぼ同様である。
- (55)「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いへの肯定的な回答の割合は、小学校で大きく減少したが、小・中学校とも全国とほぼ同様である

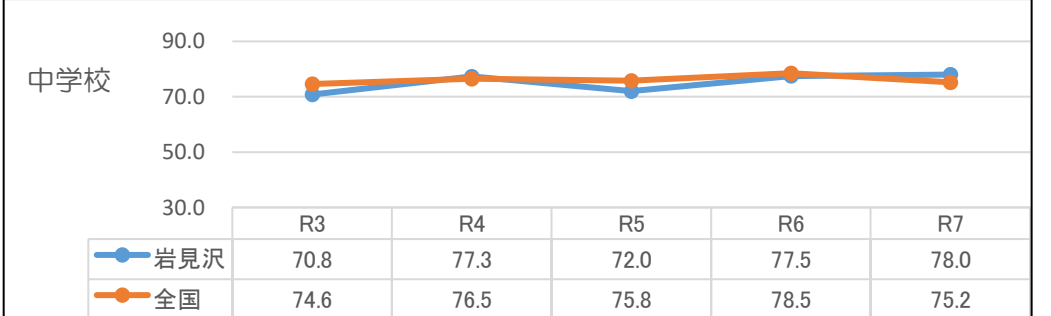
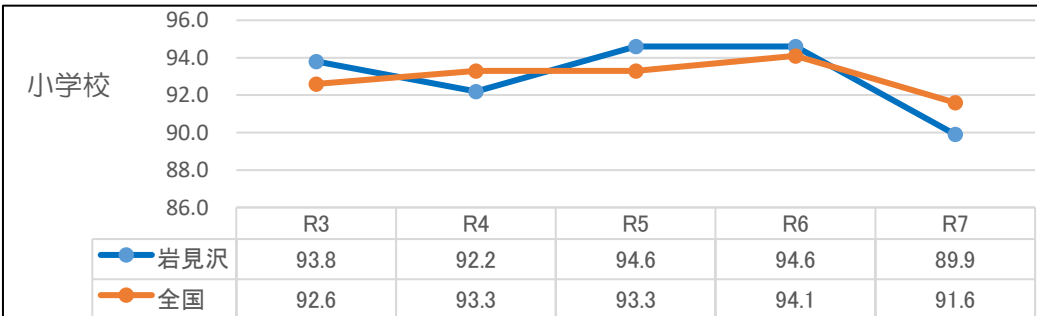
○(53)算数(数学)の勉強は好きだ



○(54)算数(数学)の授業の内容はよく分かる



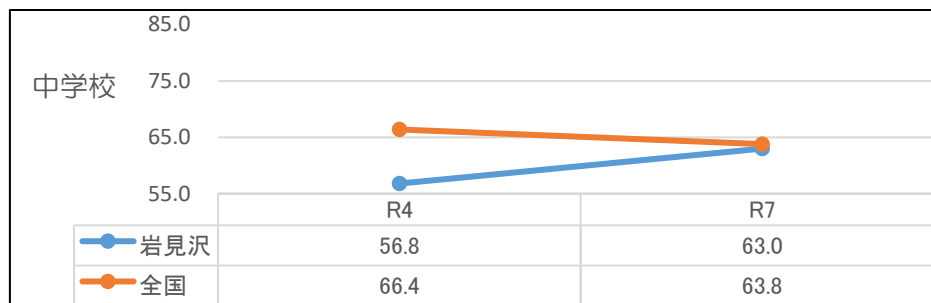
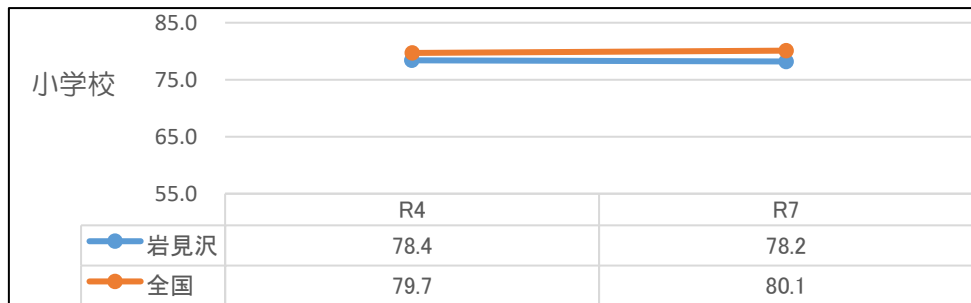
○(55)算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



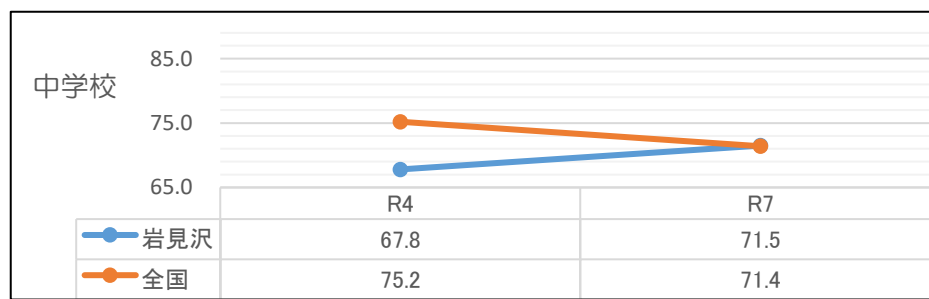
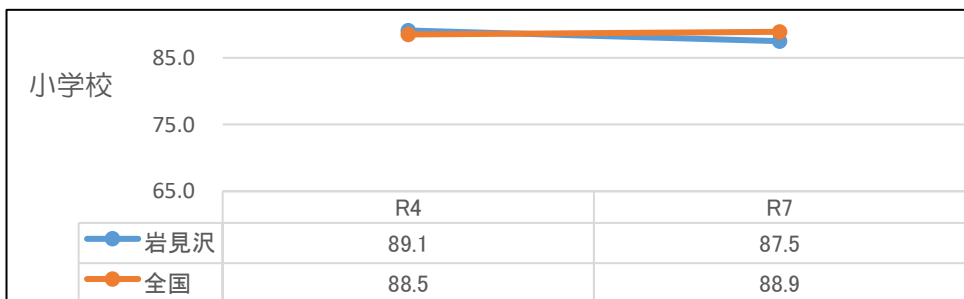
(4) 小・中学校理科 児童生徒質問調査

- ・小・中学校理科の設問については、多くの設問への回答において全国と同様の傾向がみられ、本市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- ・(61)「理科の勉強は好きですか」の問いに肯定的な回答の割合が、小学校は全国とほぼ同様に、中学校は大きく増加し、全国と同様である。
- ・(62)「理科の授業の内容はよくわかりますか」の問いに肯定的な回答の割合が、小学校は全国をわずかに下回り、中学校は増加し、全国と同様である。
- ・(63)「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的な回答の割合は、小学校は2.3ポイント上昇したが、全国よりやや低い。中学校は1ポイント減少し、全国よりやや低くなっている。

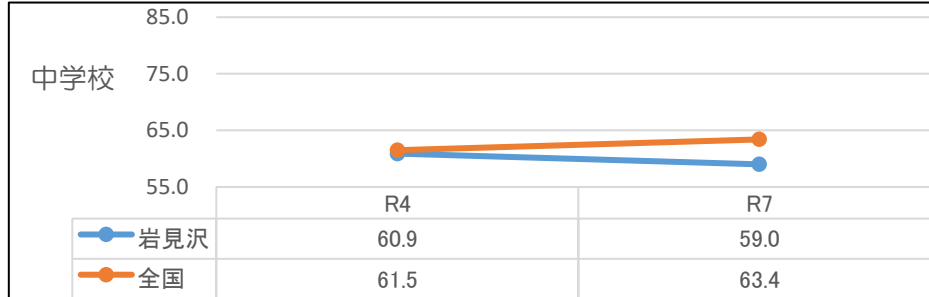
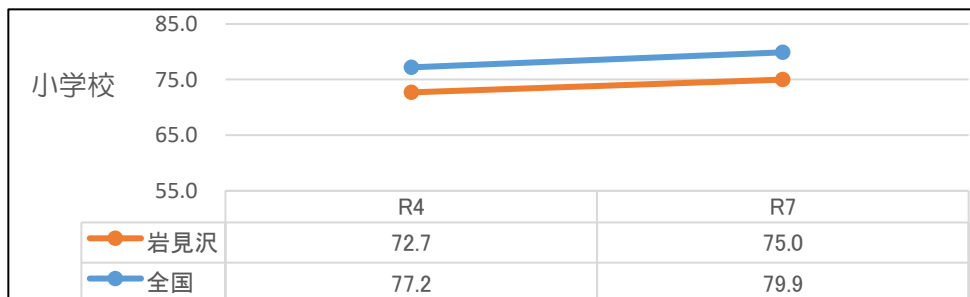
○(61) 理科の勉強は好きだ



○(62) 理科の授業の内容はよく分かる



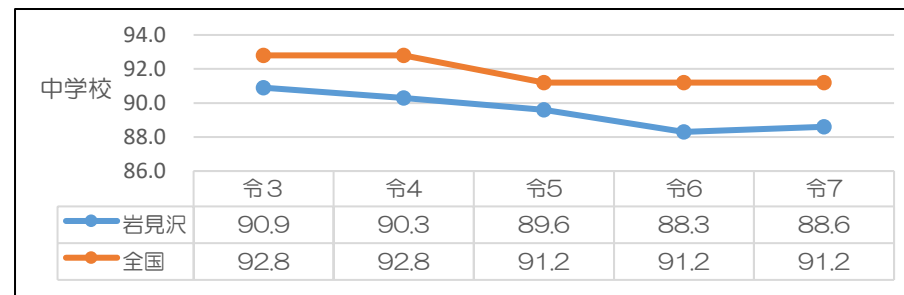
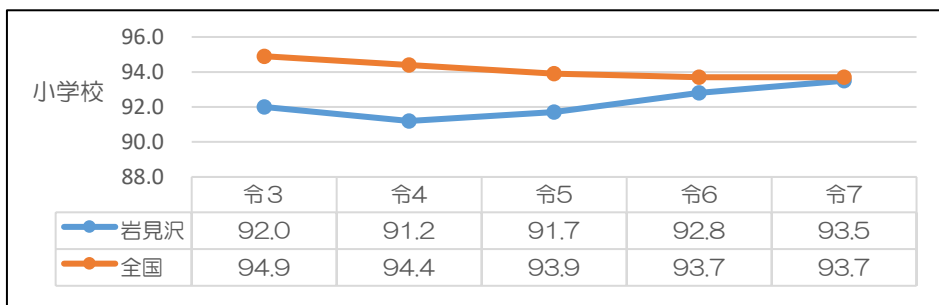
○(63) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



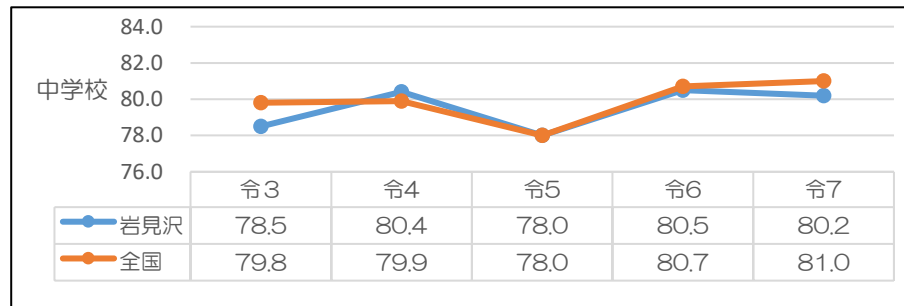
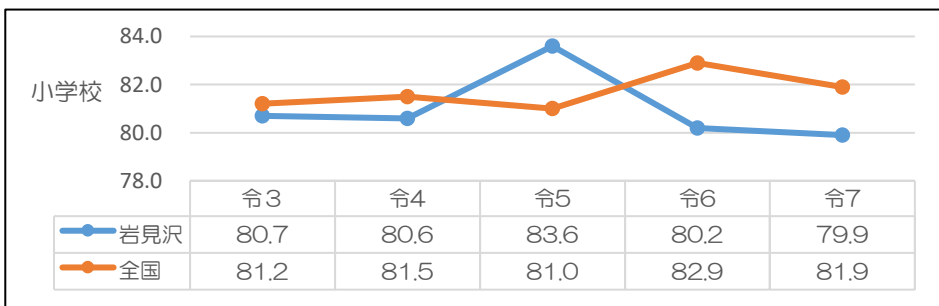
2 基本的生活習慣

- 「朝食を毎日食べていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べ、小学校は同様であり、中学校はやや下回っている。(-3.4ポイント) 5年間の経年変化で見ると、小学校は徐々に改善傾向となっているが、中学校は微増したが全国を下回っている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べ、小学校の減少傾向が続いている。中学校は全国と同様であるが全国を下回っている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の設問に対する肯定的な回答は、小学校で改善が見られ全国と同様となっている。中学校では前年度より0.3ポイント減少したが、全国と同様になっている。

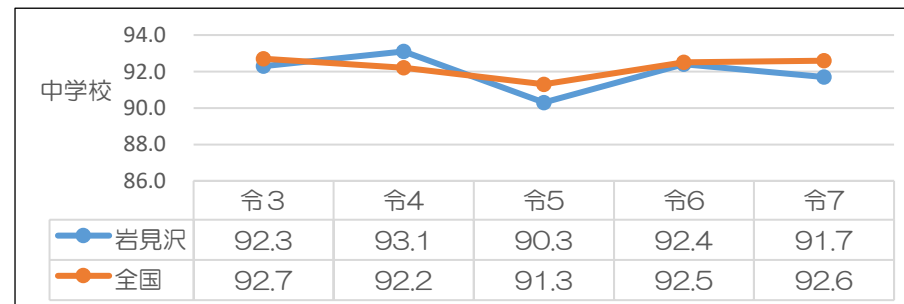
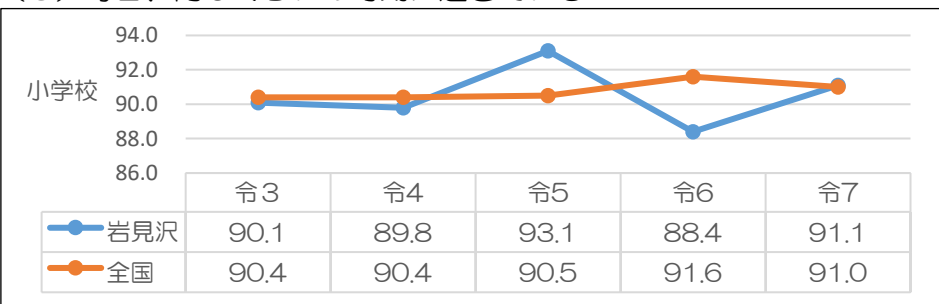
(1) 朝食を毎日食べている



(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている



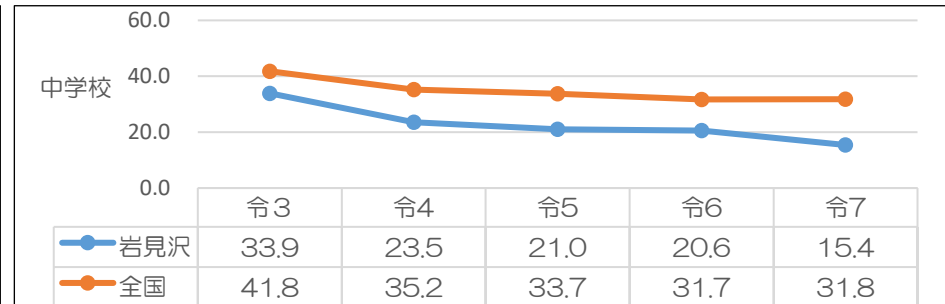
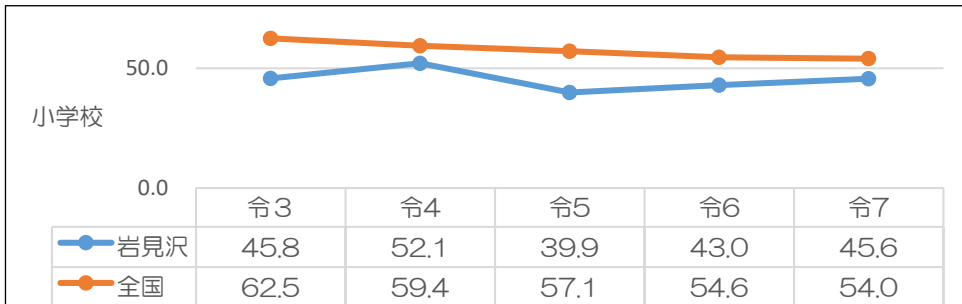
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている



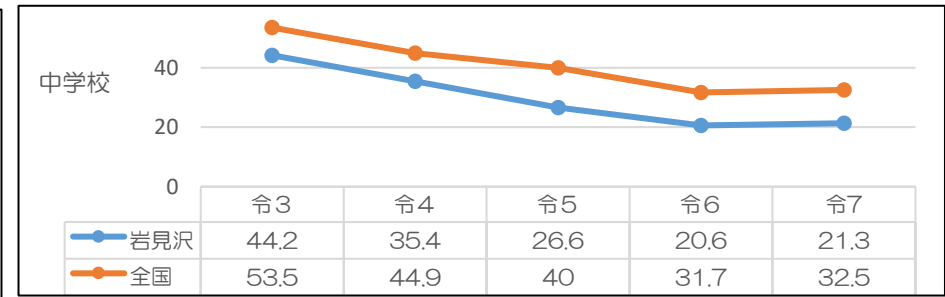
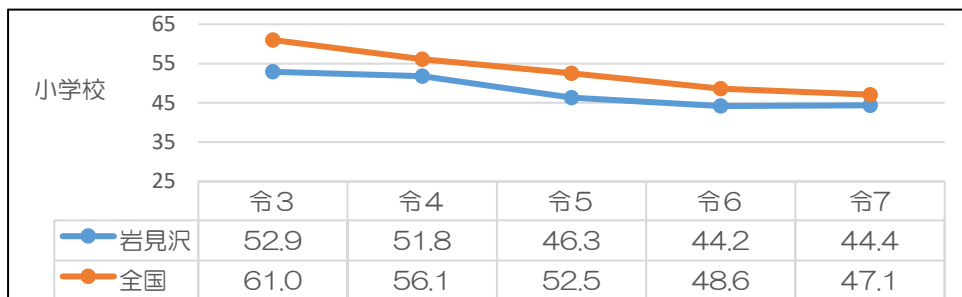
3 学習習慣等

「普段、家庭学習を行っている時間」で、小学校1時間以上、中学校2時間以上と回答した児童生徒の割合は全国と比べて、小学校は8.4ポイント、中学校は15.4ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると、小学校は若干全国との差が縮まったものの、中学校は令和4年度からの下降傾向が続き、全国との差も広がりつつある。※小学校1時間以上、中学校2時間以上勉強している割合

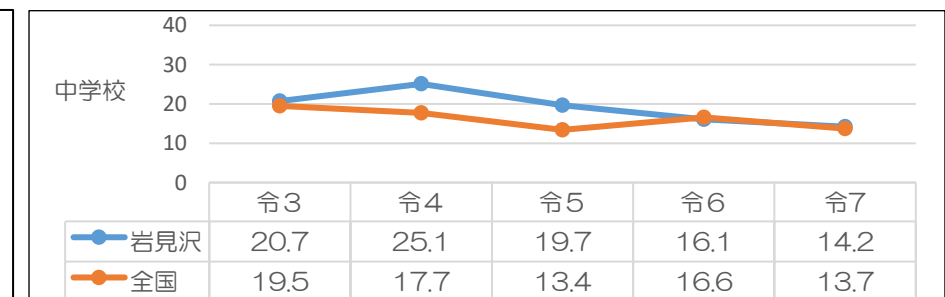
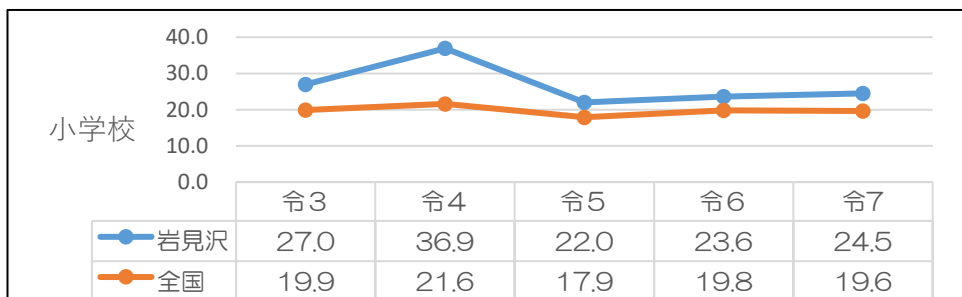
(17) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。



(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。※小学校1時間以上、中学校2時間以上

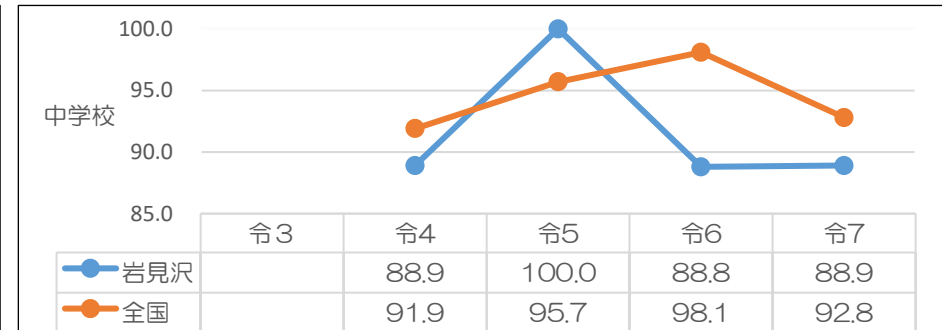
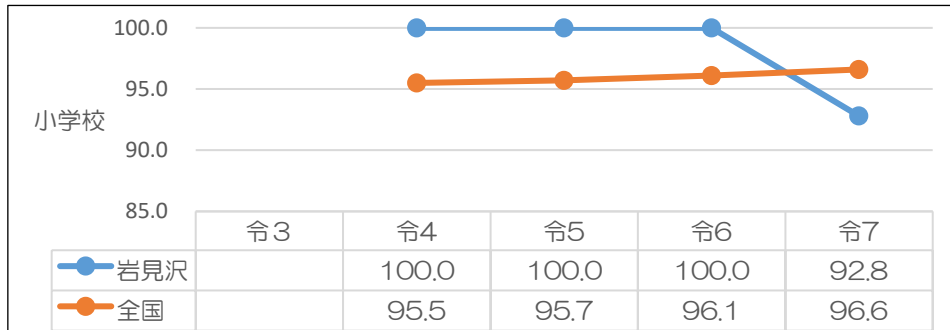


(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。※小学校1時間以上、中学校2時間以上

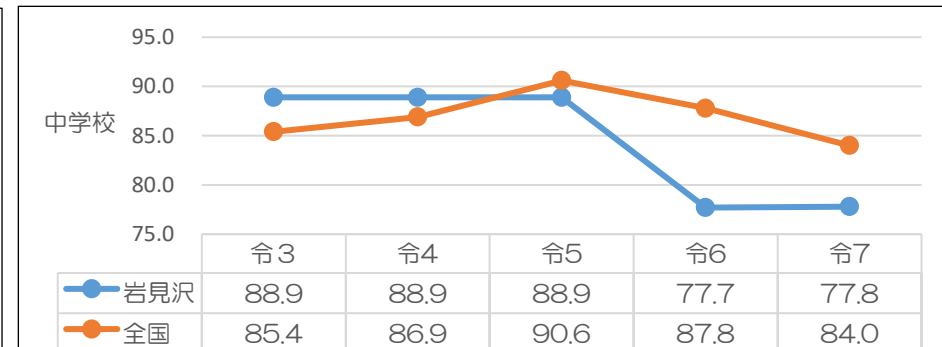
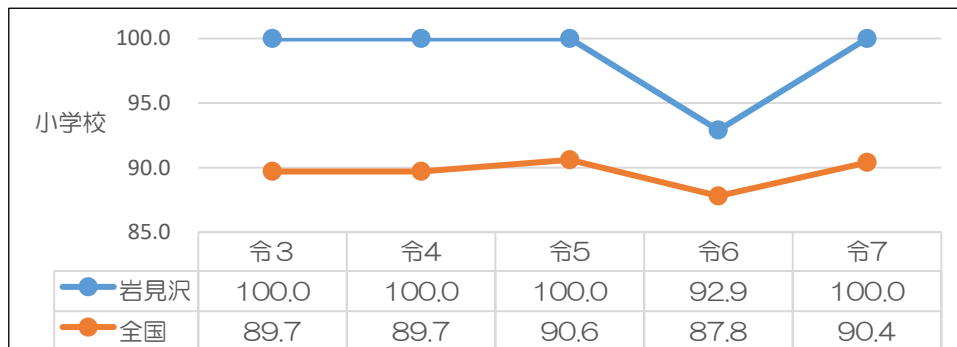


【学校質問】

(80) 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに学校では、家庭学習の取組として、学校では家庭での学習方法を具体例をあげながら教える。

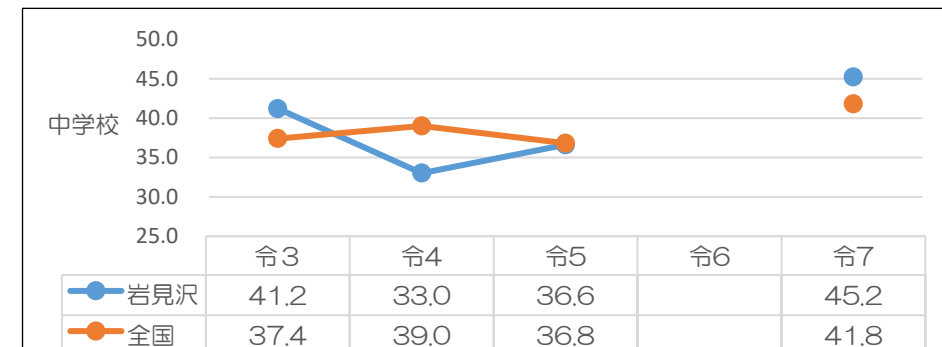
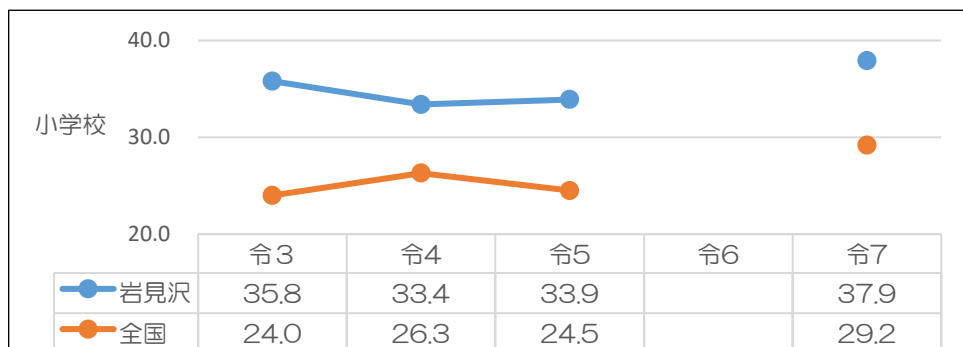


(82) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や学習改善に活かす。



【児童生徒質問】

(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含まれます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）。 ※「全くしない」と回答した児童生徒

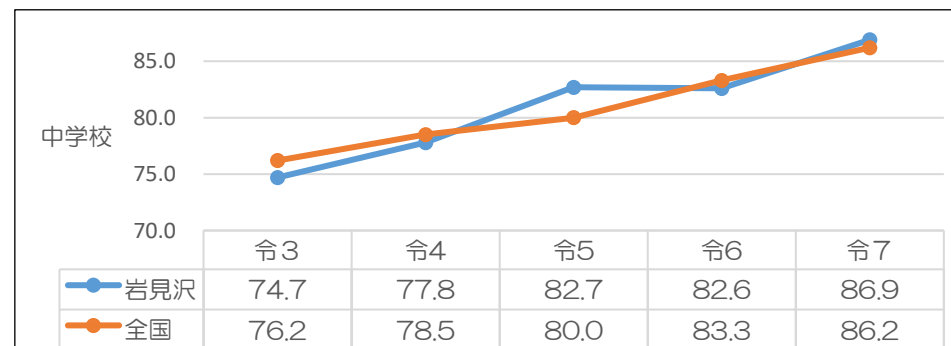
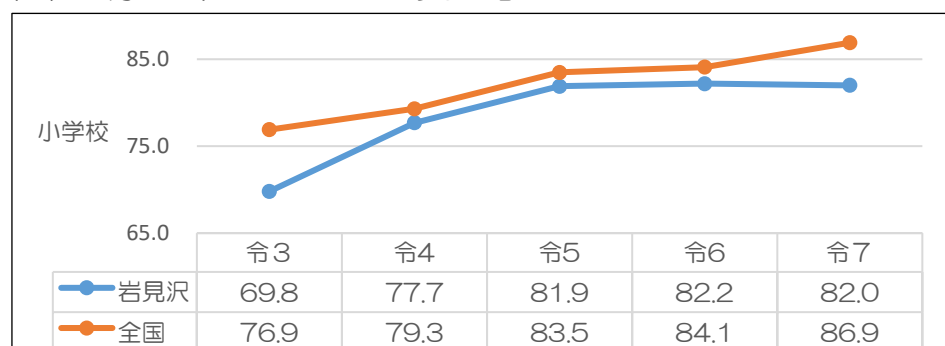


4 児童生徒の自己有用感に関する状況

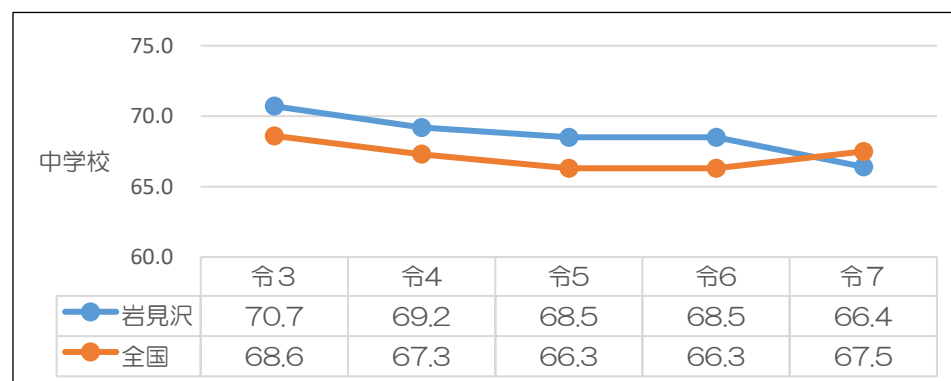
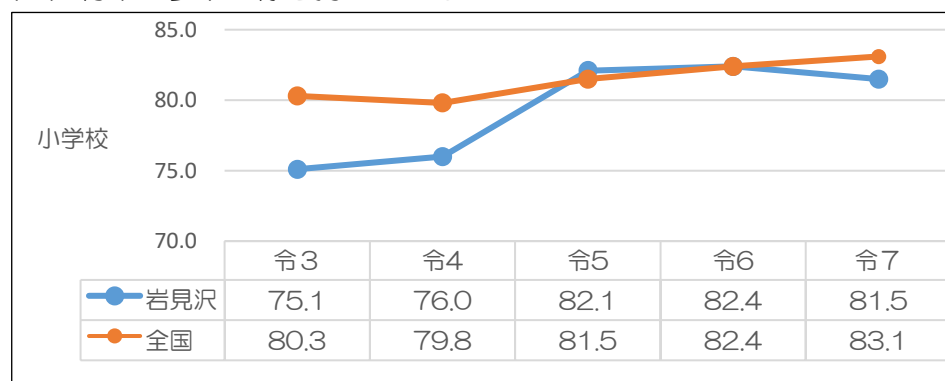
「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校では4.9ポイント下回り、中学校では0.7ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は、微減の横ばい状態であるが、中学校は上昇傾向にある。

「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校では1.6ポイント下回り、全国とほぼ同様、中学校では0.7ポイント上回り、全国と同様である。5年間の経年変化で見ると小学校は微減の横ばいが続き、中学校は下降傾向である。「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が、小学校では全国より低い4.5ポイント上昇し、中学校は全国よりやや低く、横ばいの状態である。

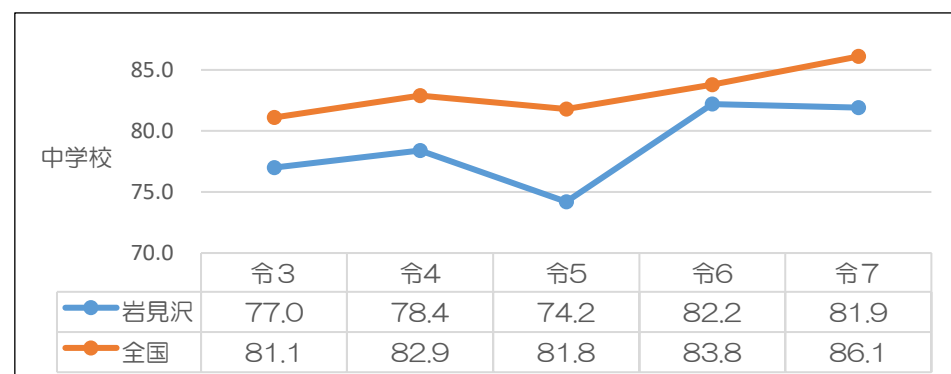
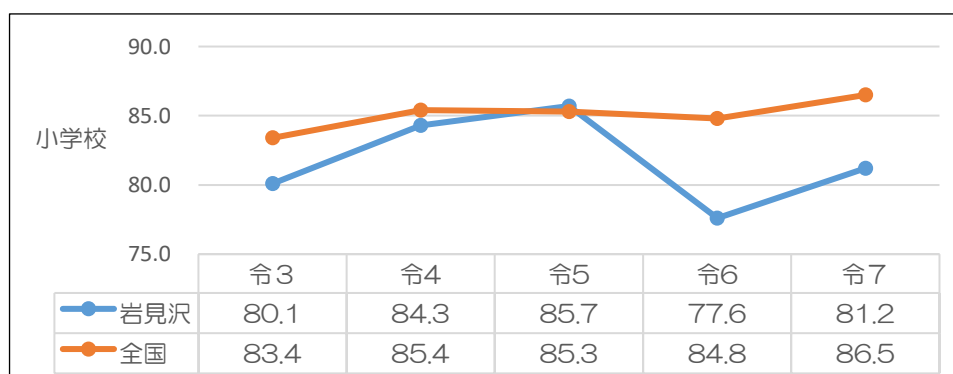
(5) 自分には、よいところがあると思う



(7) 将来の夢や目標を持っている



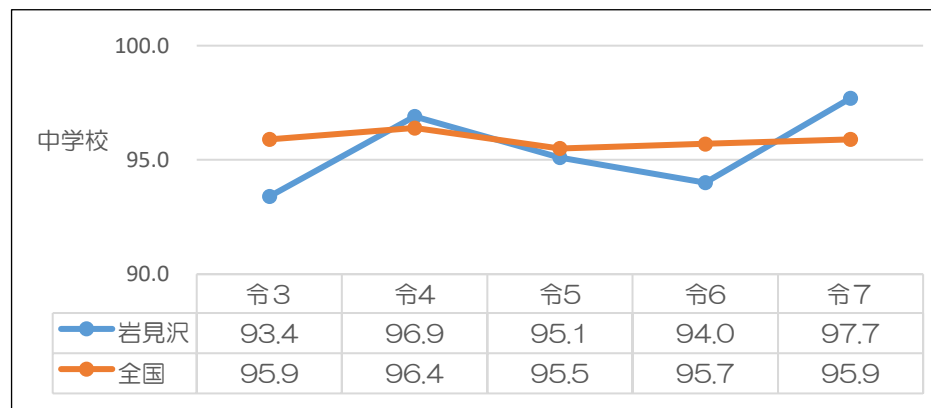
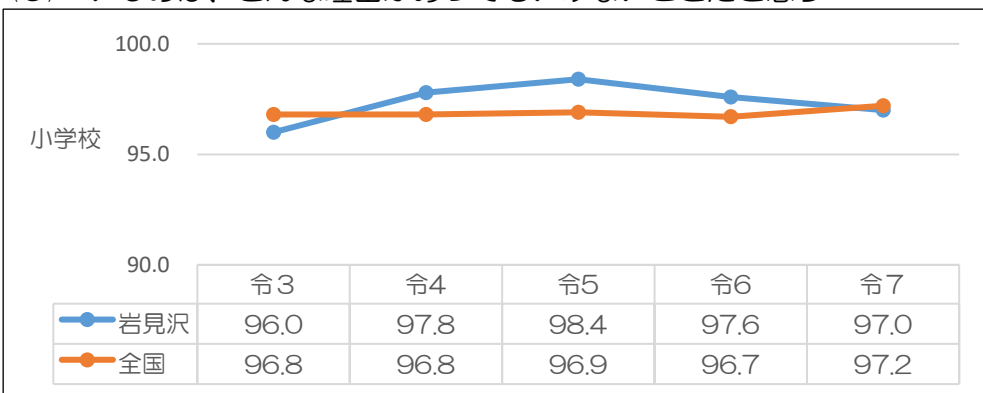
(12) 学校へ行くのは楽しいと思う



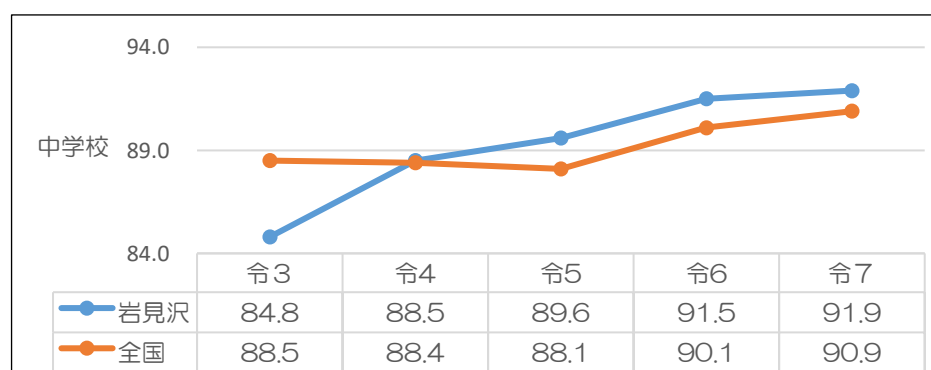
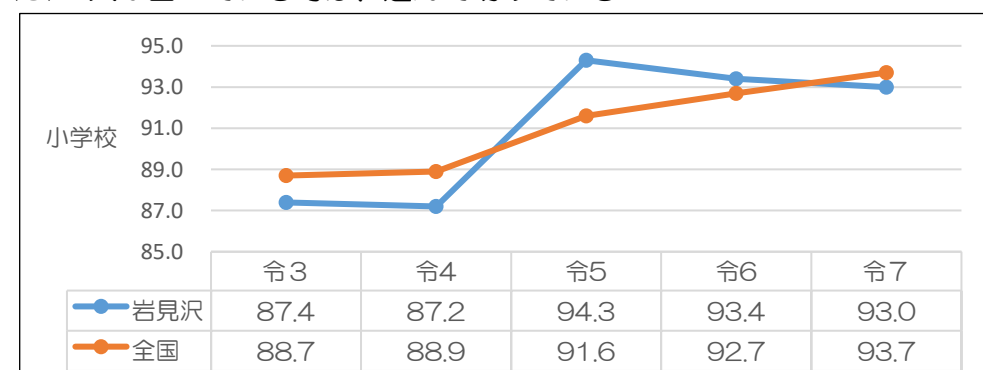
5 児童生徒の規範意識に関する状況

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は同様、中学校では1.8ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は、一昨年から僅かではあるが下降傾向が続き、中学校は昨年度より上昇している。「人が困っている時は、進んで助けていますか」という設問に対する肯定的な回答は、小学校は全国と同様、中学校は全国とほぼ同様である。5年間の経年変化で見ると小学校は一昨年から僅かではあるが下降傾向、中学校は年々上昇傾向である。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問は全国と比べ、小学校は1ポイント、中学校は1.8ポイント下回り、全国とほぼ同様だが、小中ともに減少している。

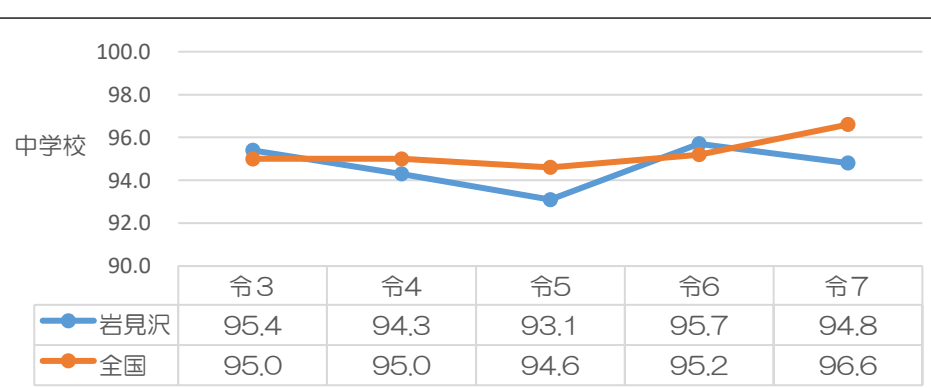
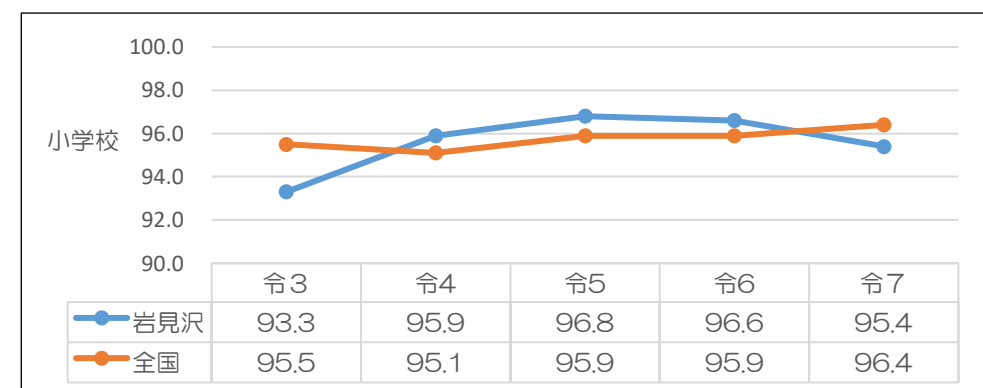
(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



(8) 人が困っている時は、進んで助けている



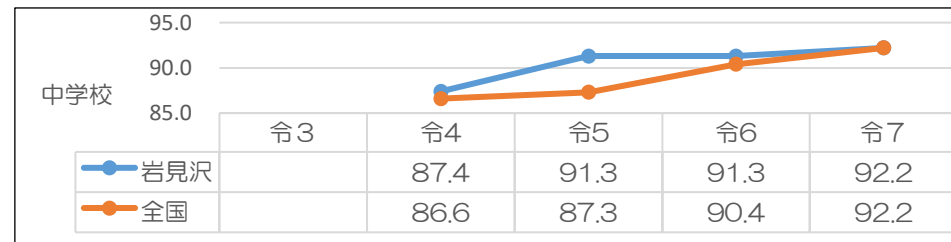
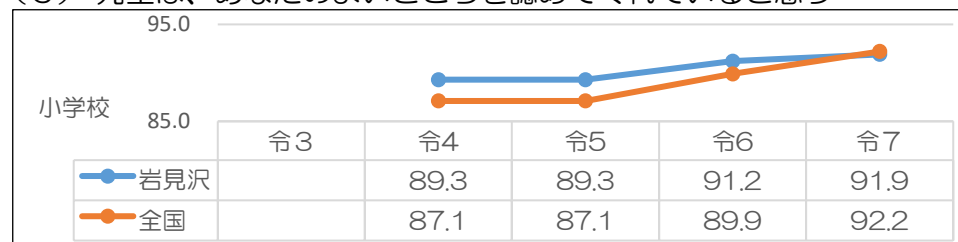
(11) 人の役に立つ人間になりたいと思う



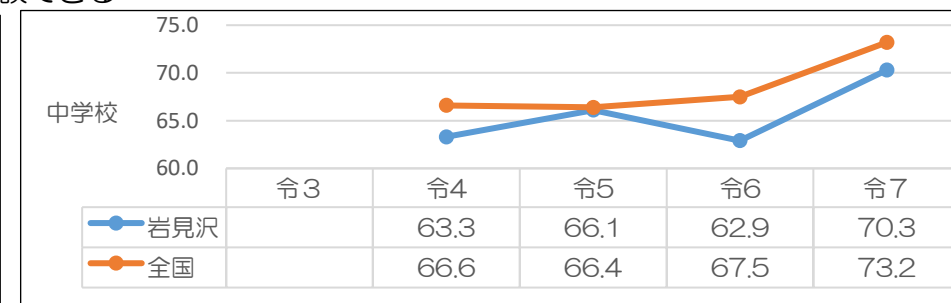
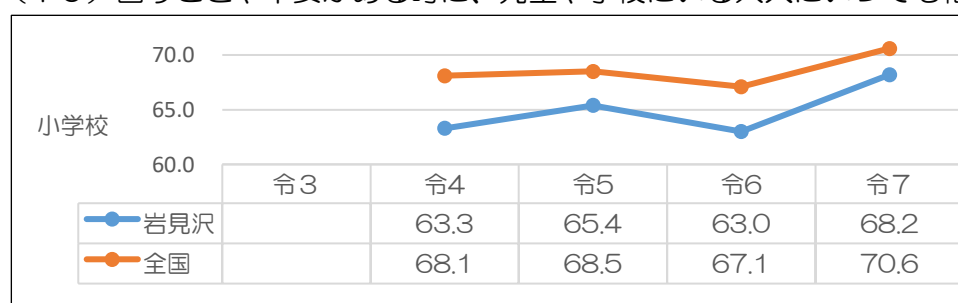
6 児童生徒の学習意欲等に関する状況

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は、小中学校ともに全国と同様で、4年間の経年変化において小中学校とも上昇傾向が続き、91%以上となっている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、小中学校ともに昨年度より大きく上昇している。

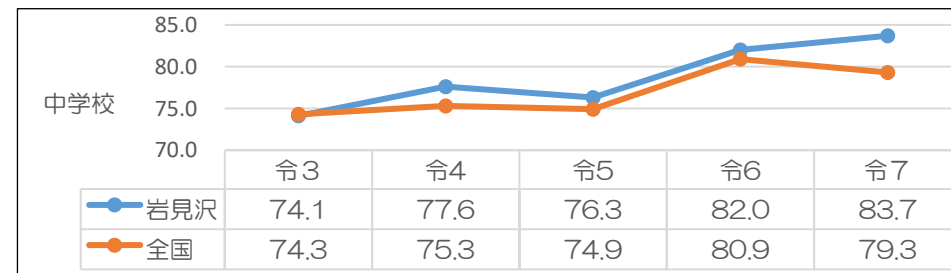
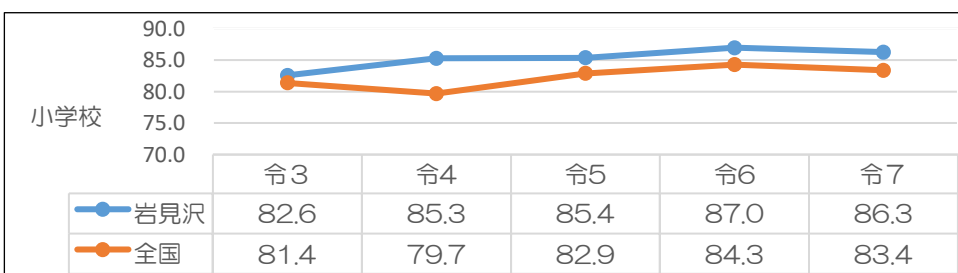
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う



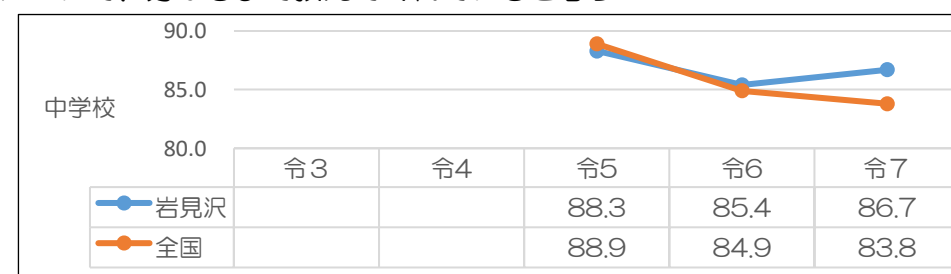
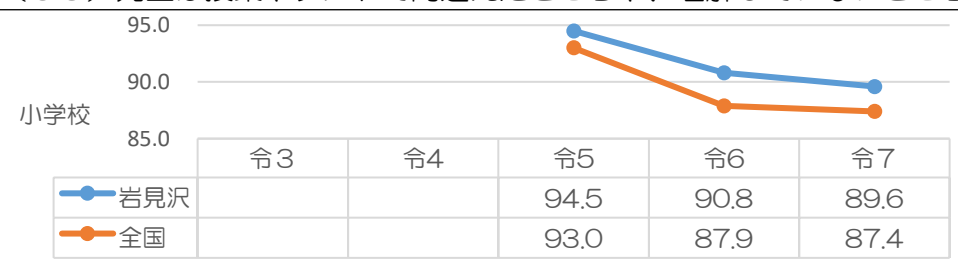
(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



(34) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間となっていた



(38) 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う

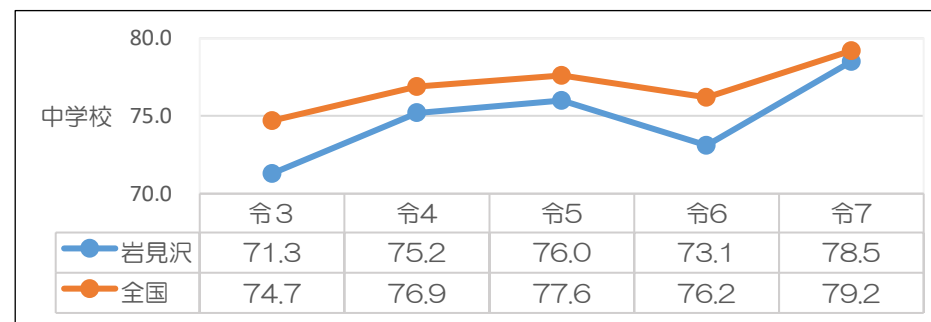
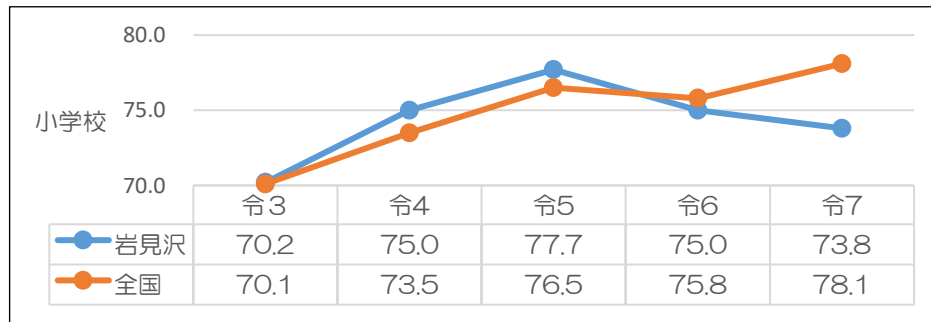


7 主体的・対話的な学び

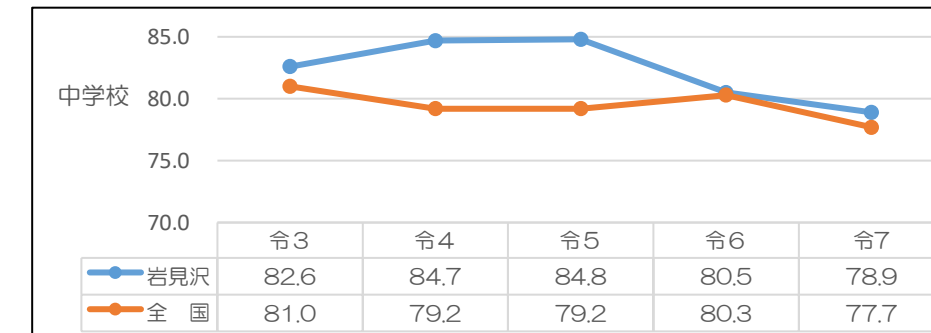
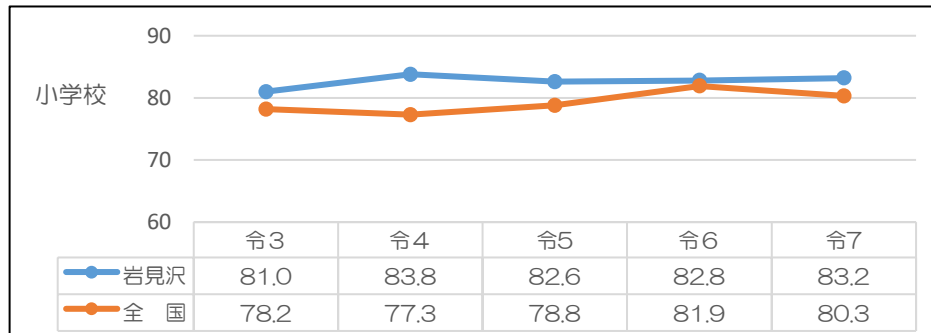
「5年生まで（中1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は0.9ポイント、中学校は0.2ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると、小学校、中学校ともに全国を上回っているが、今年度はほぼ同じ割合になっている。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校では1.5ポイント、中学校では3.5ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は引き続き上昇傾向、中学校は令和4年度から上昇傾向が続いている。

学校質問「調査対象学年の児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分の考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は10.7ポイント、中学校では11.8ポイント上回っている。経年変化を見ても肯定的な回答100%が、小学校・中学校とも続いている。しかしながら児童生徒の回答と比べると小学校で16.8ポイント、中学校で21.1ポイントの開きが見られる。

(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しい

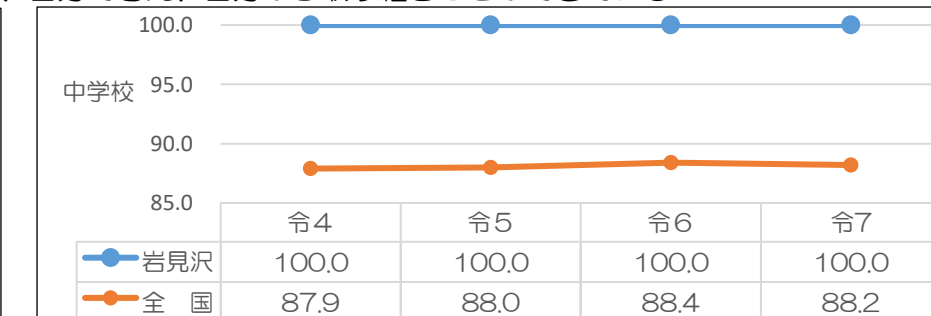
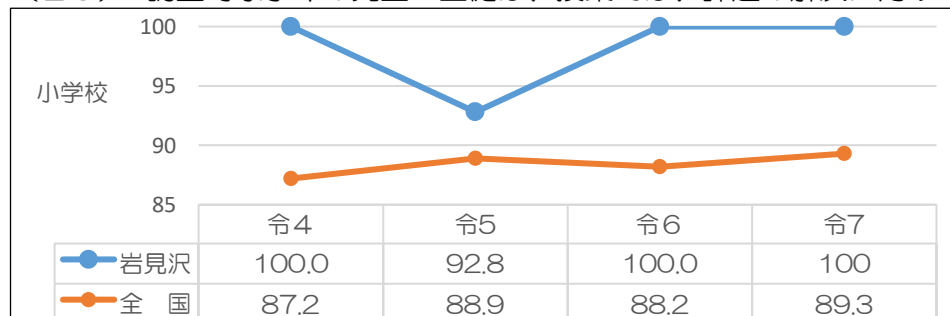


(32) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



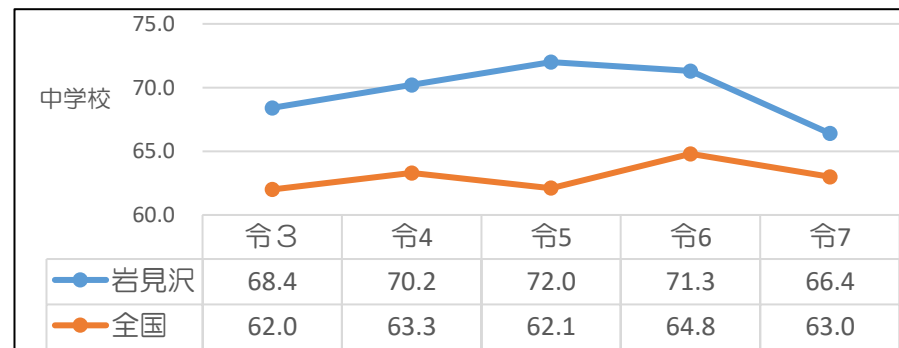
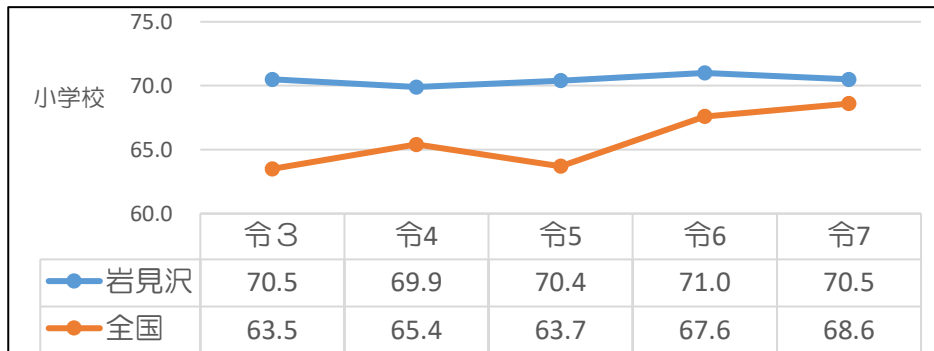
【学校質問】

(25) 調査対象学年の児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

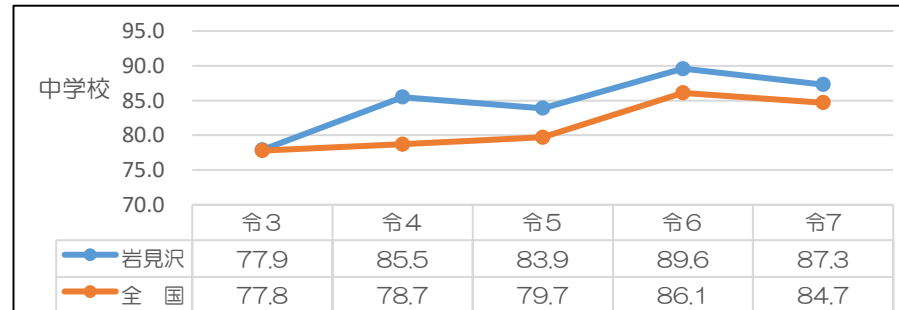
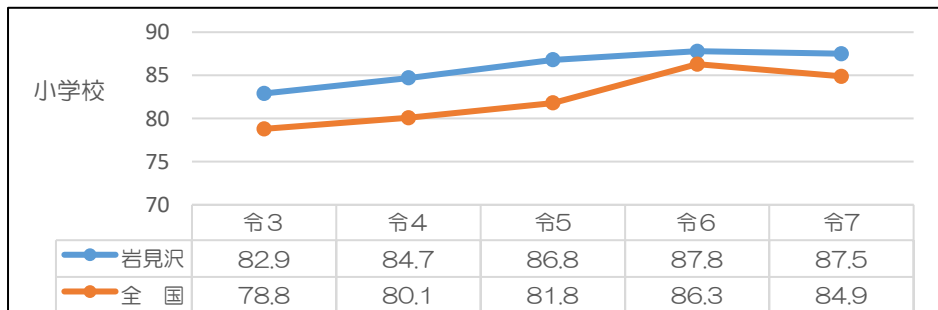


【児童生徒質問】

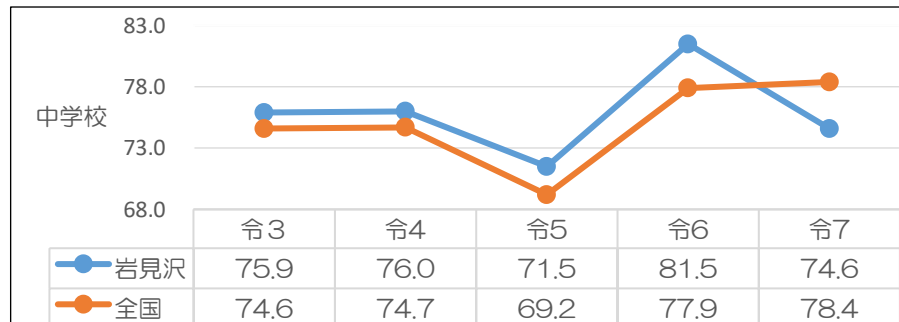
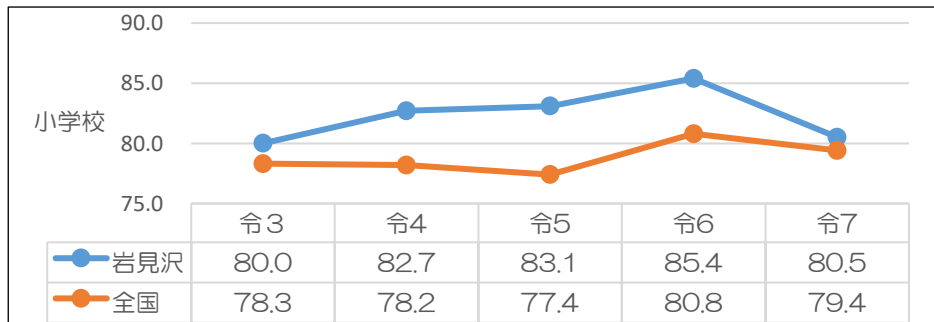
(31) 5年生(1、2年生)までに受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた



(35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている



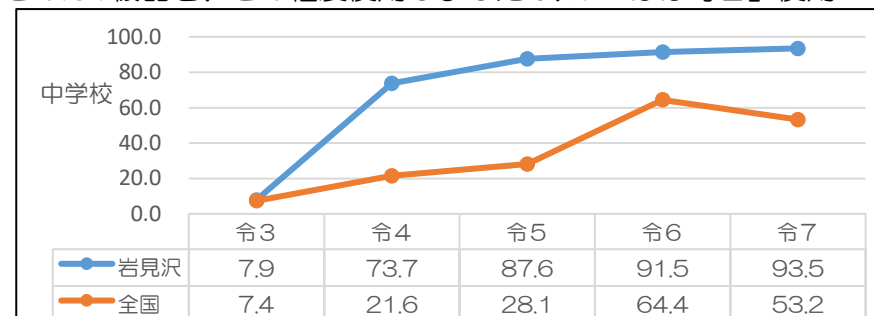
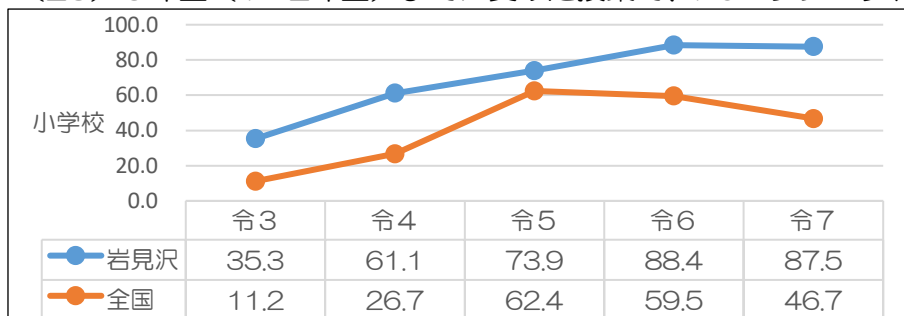
(36) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている



8 ICTの活用に関する状況

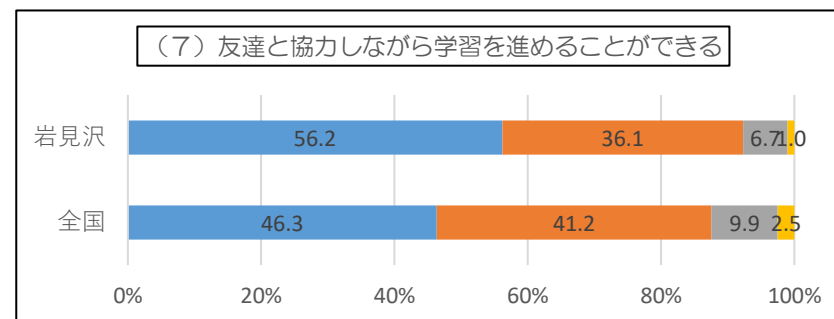
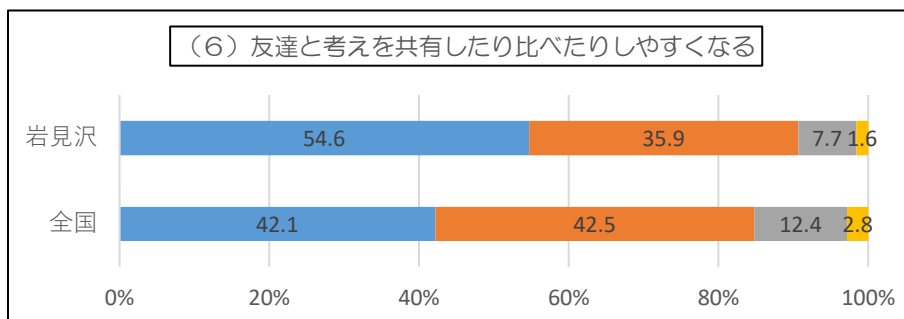
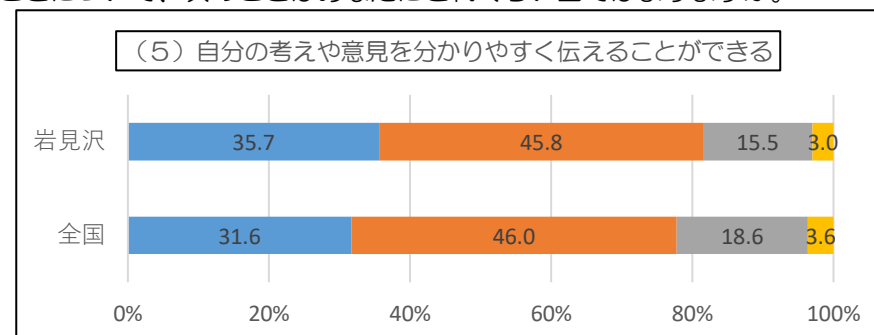
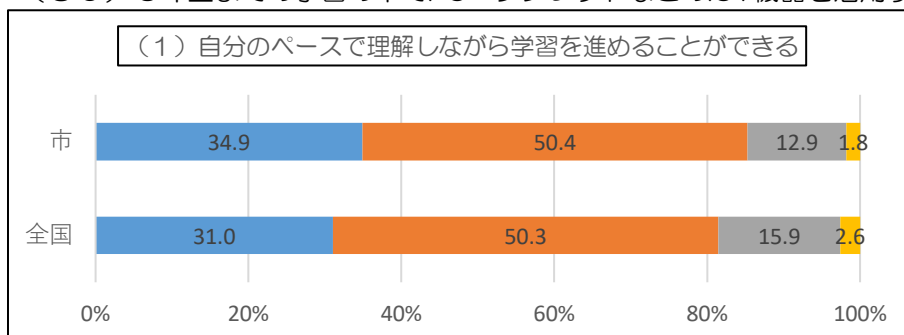
「5年生（1・2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という設問では、全国と比べて、授業での活用が相当高い。経年変化で見てもICT機器の使用頻度は全国よりも相当高い状況を継続している。ICT機器の活用による学習の効果を実感できていると思われる。

(28) 5年生（1・2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。 ※「ほぼ毎日」使用



【参考】小学校のみの設問

(30) 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。



□①とてもそう思う □②そう思う □③あまりそう思わない □④そう思わない □⑤その他

VI 調査結果を踏まえた各学校が取り組むべき岩見沢市の3つの方策

1 学習者主体による授業改革の推進 ～対話を通じた深い学びへ～

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って、身に付ける資質・能力を明確にし、教師は子どもとの対話を通して、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開

① 教師の教科等分析力と子どもの主体性を促すファシリテート力の向上

- ・単元構想を明確化し、教科等のねらい、教えるべきこと、考えさせるべきこと、学習活動を通してどんな資質・能力を育成するかを明確にする

② 自校の課題を踏まえ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を具体化する指導過程の確立

- ・子どもが課題を自ら設定し、見通しを持って学習できるようにする
- ・既習事項の活用を通して、「転移する学力」を育てる
- ・「振り返り」「学び直し」を重視し、学びを確実に定着させる

③ 求められる資質・能力の育成・向上

- ・狭義の「言語力・計算力」など基本的技能を確実に身に付けさせること、各教科等で学ぶ「知識・理解」や「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成について、自校の教育課程にバランス良く配置し、総合的に育てる
- ・ICTを効果的に活用し、情報活用能力の育成と、学習の個別化や協働的な学習の構築に努める

④ 「学習スキルの向上」と「学習ルールの徹底」

- ・ICTや思考ツール等を効果的に活用し、基本的な学習スキルを身に付けさせるとともに、「学びに向かう姿勢」を学習ルールとして徹底する

2 子どもの学習意欲や目的意識を高める組織体制の整備・拡充と全校での取組

○ 子どもたちの学びへの意欲を高め、将来に対する夢や希望を育むため、中学校区で目指す子ども像を共有し、校区の特色を生かした重点的な目標の明確化とエビデンスに基づく取組の推進

① 統一性・一貫性のある校内研修と活性化

- ・授業時数特例校制度の活用等による自校の課題解決に向けた取組を推進
(カリキュラム・マネジメントによる特色ある教育課程、教職員一人一人の当事者意識の醸成)
- ・全国学力・学習状況調査結果の誤答類型分析に基づく授業改善

② 子どもの学びの姿に基づく評価の工夫と指導方法の改善

- ・ICTを活用した多面的・多角的な評価の充実
- ・授業動画等の活用による授業研究の改善・充実

③ 子どもの学習意欲を喚起し、個々の学びの時間の確保と充実

- ・家庭や地域に広がる「探究的な学習」の展開
- ・AIドリル等を活用した家庭での学習習慣の醸成

④ 小・中連携によるの共有と継続

- ・中学校区で目指す子ども像を共有し、9カ年を見通した組織的な取組(指導過程、授業過程の統一)による学びの確立
- ・小・中合同研究による指導方法の統一
- ・児童生徒理解の深化

3 子どもの基本的な生活習慣の確立

○ 学力の向上と学校生活の安定の基盤は、「子どもたちの規則正しい生活」と捉え、その確立と改善に向けた啓発等の取組の推進

① 各中学校区(コミュニティ・エリア)における取組の推進

- ・「家庭の5つの約束」の理解啓発
- ・ゲーム・スマートフォンの使用のルール等の取り決め
- ・地域、関係機関の協力を得た授業の実施
- ・「岩見沢型ピア・サポート」の実施による信頼関係に基づく学習集団づくりの強化